

64-256



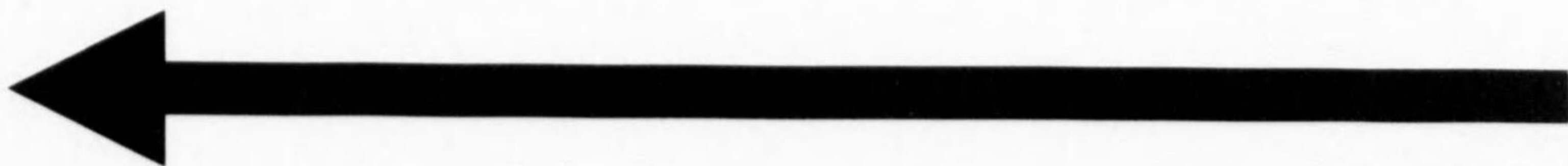
1200501278125

64

'56



始





川勝

家文書



同治庚午
月
日
書

à Sa Majesté le Paikoun du Japon.

J'arrive de Hogo et j'ai à vous
donner des nouvelles de la plus haute importance.
La détermination que j'ai prise de venir moi-même
à Yedo, doit prouver à votre Majesté qu'il n'y a
pas un instant à perdre et que je désire la voir
immédiatement et dans une minute de retard.
Il est bien entendu que c'est le Paikoun que
je veux voir et non point un de ses Ministres.
Aide de Yedo à bord du Kémouchan le 11 Juin 1854.

(Ministre de France)

(Léon Procès)

暴之
大君殿 下ニロシム
シヤガキ
L'Empereur du Japon
Yedo. 1854
Léon Procès

凡例

一、本書ハ舊幕臣川勝近江守廣道ノ後裔鍊吉郎氏所藏ニ
 係ル書牘公文書類ヲ編輯セシモノ也、廣道ハ徳川氏世
 祿ノ名家ニ出テ、歩兵頭並ヨリ外國奉行ニ任シ、外國總
 奉行並、外國事務副總裁ニ累進シ、傳習掛、留學生掛ヲ兼
 ネ、後開成所總奉行ト爲ル、江戸幕府瓦解ニ際シ、小栗上
 野介忠順、栗本安藝守鯤、山口駿河守直毅、朝比奈甲斐守
 昌廣等ト共ニ樞機ニ參畫セシ中心人物タリ、本書ニ輯
 ムル所ノ史料ハ廣道カ其秘筐ニ格護セシ當時ノ機密
 文書ニシテ概ネ原本タリ、今之ヲ類輯大別シテ四ト爲

セリ、其一「在外幕府吏員書翰」ハ主ニ慶應三年佛國ニ派遣セラレタル向山隼人正一履、栗本安藝守鯤ヲ初メ徳川民部大輔昭武一行等ノ書翰上申書類ニシテ、親佛親英ノ二派ヲ生シタル一行中ノ首腦者カ民部公子ノ留學問題ヲ繞リテ佛國政府關係者ニ對シ苦心折衝セシ内情ヲ語ル好箇ノ資料タリ、其二「駐劄外國使臣等往復書翰」ハ主ニ本邦駐劄公使等ト幕府當路トノ往復文書ニシテ、佛國公使「レオン・ロツシユ」以下佛人ノ書信多ク、其對幕關係ノ一端ヲ窺フニ足ルベク、其三「原題」内廻し物トセル一括ハ、生麥殺傷英艦隊ノ鹿兒島砲擊、長藩ノ下關外船砲擊、英佛米蘭聯合艦隊ノ下關砲擊事件ニ關

スル内外文書及ヒ元治蛤門事變ノ公文書類ニシテ、閣老以下要路間ニ内達回覽セラレタル機密文書ナリ、其四「雜部」ニハ、主ニ幕府ノ政權奉還後ニ於ケル時局收拾ニ關スル内外人ノ意見書、江戸薩邸燒打官軍、江戸進撃新潟開港等ニ關スル文書ヲ輯録セリ、此外ニ加藤弘之著述「鄰艸」一篇ハ、既ニ一二文獻中ニ収録印行セラレタリト雖、川勝家ニ傳ハリシモノ當時ノ謄寫ニ係ルヲ以テ重複ヲ厭ハス之ヲ收載セリ、又卷尾ニ佛國公使及ヒ陸軍傳習佛人教師等ノ書翰原文ヲ載セテ譯文トノ對照ニ供シ、卷頭ニ佛國公使「レオン・ロツシユ」ノ書翰寫眞ヲ附シテ其筆蹟ヲ示セリ。

凡例 四

一、本書ノ上梓頒布ヲ許可セラレタル川勝氏ノ好意ニ對シ茲ニ謹テ深厚ナル謝意ヲ表ス。

昭和五年五月

日本史籍協會

川勝家文書 全

目次

在外幕府吏員等書翰

- 一 原田吾一書翰 「藤澤肥後守等宛」 元治元年正月十二日 一頁
- 二 横濱鎖港使節池田筑後守等書翰 「陸軍奉行宛」 元治元年正月十三日 四
- 三 川勝丹波守京極能登守連名書翰 「池田筑後守等宛」 元治元年二月九日 六
- 四 原田吾一書翰 「藤澤肥後守等宛」 元治元年正月十八日 七
- 五 原田吾一書翰 「川勝光之輔(近江守)宛」 元治元年六月十一日 九
- 六 在佛栗本安藝守書翰 「川勝近江守宛」 慶應三年九月廿三日 一〇
- 七 在佛向山隼人正上申書 慶應三年九月 一五
- 八 在佛向山隼人正書翰 「佛國外務大臣宛」 一八

慶應三年九月廿六日(前書別紙)

九	在佛栗本安藝守書翰	「川勝近江守宛」	慶應三年十月二日	一九
一〇	在佛向山隼人正栗本安藝守連名書翰	「川勝近江守宛」	慶應三年十月三十日	二一
一一	在佛栗本安藝守書翰	「川勝近江守宛」	慶應三年十一月朔日	二四
一二	在佛栗本安藝守書翰	「川勝近江守等宛」	慶應三年十一月十三日	二六
一三ノ一	在佛栗本安藝守書翰	「川勝近江守等宛」	慶應三年十一月十四日	三四
一三ノ二	在英向山隼人正高山石見守連名書翰	「在佛栗本安藝守宛」	慶應三年十一月十三日	四一
一三ノ三	在英向山隼人正書翰	「在佛栗本安藝守宛」	慶應三年十一月十三日	四二
一三ノ四	在英三田伊衛門書翰	「在佛栗本安藝守宛」	慶應三年十一月十三日	四三
一四	栗本安藝守滯佛命令請書		慶應三年十一月十五日	四六
一五	在佛向山隼人正書翰	「山口駿河守等宛」	慶應三年十一月廿六日	四六

一六	向山隼人正於倫敦英國外務大臣と談判筆記		慶應三年十一月十五日	四八
一七	在佛向山隼人正書翰	「山口駿河守等宛」	慶應三年十一月廿七日	五四
一八	在佛保科俊太郎書翰	「川勝近江守宛」	慶應三年十一月廿九日	五七
一九	在佛栗本安藝守書翰	「川勝近江守等宛」	慶應三年十一月晦日	六〇
二〇	在英川路太郎中村敬輔願書		慶應三年十一月	六四
二一	在佛栗本安藝守書翰	「山口駿河守等宛」	慶應三年十二月十五日	六八
二二	在佛栗本安藝守書翰	「川勝近江守等宛」	慶應三年十二月十九日	七一
二三	在佛栗本貞次郎書翰	「川勝近江守宛」	慶應三年十二月廿一日	七四
二四	在佛栗本安藝守上申書		慶應三年	八二
二五	幕府達書	「川勝近江守宛」	慶應三年十二月十八日	八五
二六	在英川路太郎中村敬輔連名書翰	「小栗上野介等宛」	明治元年二月十七日	八八
二七	在佛山高石見守外二名連署書翰	「川勝近江守等宛」	明治元年二月廿二日	九三
二八	在佛栗本安藝守書翰	「山口駿河守等宛」	明治元年二月廿三日	九五

二九	在英川路太郎中村敬輔連名書翰	「山口駿河守等宛」	明治元年二月二十三日	九七
三〇	在英川路太郎中村敬輔連名願書		明治元年二月	九八
三一	同上		明治元年二月	九九
三二	在英川路太郎中村敬輔連名書翰	「小栗上野介等宛」	明治元年三月三日	一〇〇
三三	在英川路太郎中村敬輔連名願書		明治元年三月	一〇一
三四	在佛栗本安藝守書翰	「平山圖書頭等宛」	明治元年三月廿五日	一〇二
三五	在英川路太郎中村敬輔連名書翰	「傳習掛宛」	明治元年三月廿五日	一〇五
三六	在佛川路太郎書翰	「川勝近江守宛」	明治元年四月廿五日	一〇七
三七	在英川路太郎中村敬輔連名書翰	「川勝近江守等宛」	明治元年四月	一〇九
三八	在佛栗本貞次郎澁澤篤太夫連名書翰			一一三
		「栗本安藝守等宛」	明治元年閏四月廿七日	
三九	在佛山高石見守書翰	「川勝近江守宛」	明治元年閏四月廿七日	一一九
四〇	在佛山高石見守願書	「側衆宛」	明治元年閏四月	一二〇

四一	在佛栗本貞次郎書翰	「川勝近江守宛」	明治元年五月廿六日	一二〇
四二	在佛栗本貞次郎澁澤篤太夫連名書翰			一二三

駐劄外國使臣等との往復書翰

一	米人「ソウ・シ・ドウ・ヲール」書翰			一二七
		「中濱萬次郎宛」	一八六一年十二月廿九日	
二	米人「ウキリアム・エツチ・ウキツトフエルト」書翰			一二八
		「中濱萬次郎宛」	文久二年二月九日	
三	米人「デキソン」書翰	「立石斧次郎宛」	一八六二年五月十一日	一三一
			文久二年四月十三日	
四	蘭醫「ボンベ」書翰	「外國奉行岡部駿河守宛」	一八六二年七月十七日	一三五
			文久二年六月廿一日	
五	英公使「オールコック」書翰	「老中宛」	一八六四年八月廿九日	一三九
			明治元年七月二十八日	
六	佛公使「レオン・ロツシュ」書翰	「老中宛」	一八六四年八月三十日	一四二
			明治元年七月二十九日	
七	水野和泉守書翰	「英公使オールコック」宛	明治元年八月五日	一四三

○水野和泉守書翰 米國公使「アリユキ」宛 元治元年八月五日 一四五

○水野和泉守書翰 關總領事「ホルスブルック」宛 元治元年八月五日 一四六

○佛公使「レオン・ロツシユ」書翰 (歐原文寫卷末1頁) 一四七

八 佛公使「レオン・ロツシユ」書翰 「老中宛」 一八六五年四月廿一日 一四八

「老中宛」 慶應元年三月二十六日 一四九

九 蘭人「カール・レーマン」書翰 「田中哲輔」宛 一八六五年五月十七日 一五〇

「老中宛」 慶應元年四月二十三日 一五一

一〇 蘭人「ズークセン」書翰 一八六五年七月二十日 一五二

慶應元年閏五月廿八日 一五三

一一 佛公使「レオン・ロツシユ」書翰 井口達書「老中宛」 慶應元年九月十九日 一五八

一二 外國奉行等上申書 慶應元年十二月十八日 一六二

一三 外國奉行及外國掛目付伺書 慶應元年十二月廿九日 一六八

○老中連署書翰案 「佛公使宛」 慶應元年十二月 一七〇

○老中申渡案 「佛人「フリュリ・ヘラルド」宛 慶應元年十二月 一七〇

一四 佛公使「レオン・ロツシユ」書翰 (歐原文寫卷末4頁) 「老中宛」 一八六六年九月十五日 一七〇

慶應二年八月七日 一七〇

一五 佛人「ウエルニ」書翰 「横須賀製鐵所掛宛」 一八六六年九月十六日 一七二

慶應二年八月八日 一七三

一六 佛公使「レオン・ロツシユ」書翰 (歐原文寫卷末6頁) 「老中宛」 一八六六年十二月廿二日 一七六

慶應二年十一月十六日 一七六

一七 米國領事書翰 「勝安房守宛」 一八六七年五月十六日 一七八

慶應三年四月十三日 一七八

一八 佛公使「レオン・ロツシユ」書翰 「板倉伊賀守宛」 一八六七年八月三十日 一八〇

慶應三年八月二日 一八〇

一九 板倉伊賀守書翰 佛公使「レオン・ロツシユ」宛 慶應三年八月七日 一八三

○板倉伊賀守書翰 佛公使「レオン・ロツシユ」宛 慶應三年八月七日 一八三

○將軍德川慶喜書翰 佛帝「ナポレオン三世」宛 慶應三年八月三日 一八四

○將軍德川慶喜書翰 佛公使「レオン・ロツシユ」宛 慶應三年八月三日 一八五

二〇 佛公使「レオン・ロツシユ」書翰 (歐原文寫卷末8頁) 「小笠原壺岐守宛」 一八六七年十一月十七日 一八七

慶應三年十月二十二日 一八七

二一 佛公使「レオン・ロツシユ」書翰 (歐原文寫卷末10頁) 一八八

二二	尺振八書翰	「川勝近江守宛」	明治元年四月廿三日	一八九
二三	在巴里日本總領事「フリユリー・ヘラルド」書翰			一九三
		「栗本安藝守宛」	明治元年四月二十六日	
二四	佛人「ビゲー」書翰	(歐原文寫卷末11頁)		一九四
		「川勝近江守宛」	明治元年閏四月廿二日	
二五	佛人「プリユネ」書翰	(歐原文寫卷末12頁)		一九六
		「淺野次郎八等宛」	明治元年七月十五日	
二六	佛人「シャノワン」書翰	(歐原文寫卷末15頁)		一九六
		「河野左門宛」	明治元年七月十六日	
二七	佛人「サミー」書翰	「川勝近江守宛」	一八六九年八月廿六日 明治二年七月十九日	二〇〇
二八	佛人「ブーセー」兵學寮雇傭契約書		一八七〇年十一月三十日 明治三年閏十月八日	二〇二

内廻し物

生麥事變并鹿兒島砲擊

一	島津三郎使者并鹿兒島藩留守居届書	「幕府へ」	文久二年八月	二〇七
二	鹿兒島藩留守居用人等上申書	「幕府へ」	文久二年閏八月廿五日	二一〇
三	英國代理公使「ジョン・ニール」書翰	「老中へ」	一八六三年四月六日 文久三年二月十九日	二一三
四	鹿兒島藩主届書	「幕府へ」	文久三年七月四日	二三〇
五	英國艦隊鹿兒島砲擊記事		文久三年七月	二三一
六	英國公使館書記官「ユースデン」書翰			二五七
		「神奈川奉行へ」	一八六三年九月十八日 文久三年八月六日	
七	外國奉行内申手續書		文久三年七月頃	二五八
八	老中達書	「外國奉行へ」	文久三年七月十六日	二六一
九	鹿兒島藩主届書	「幕府へ」	文久三年八月	二六一

一〇	英國代理公使「ジョン・ニール」書翰	「老中へ」	一八六三年九月廿二日	二六二
一一	英國代理公使「ジョン・ニール」書翰	「老中へ」	一八六三年十月廿一日 文久三年九月九日	二六四
一二	鹿兒島藩重野厚之丞口上手扣	「幕府へ」	文久三年九月十九日	二六七
一三	徳川慶喜書翰	「板倉靜勝へ」	文久三年九月廿日	二七〇
一四	外國奉行内申書	「老中へ」	文久三年九月廿一日	二七一
文久三年攘夷并下關砲撃				
一五	島津三郎上申書	「朝廷へ」	文久三年三月十七日	二七五
一六	鹿兒島藩上申書	「朝廷へ」	文久三年三月	二七六
一七	攘夷期限奏聞并布告書		文久三年四月	二七七
一八	山口藩留守居上申書	「幕府へ」	文久三年六月五日	二七八
附 外國掛大小目付評議上申書				

一九	山口藩への幕府達案		文久三年六七月頃	二八一
二〇	山口藩家老書翰	「小倉藩家老へ」	文久三年六月二十日	二八二
二一	小倉藩留守居上申書	「幕府へ」	文久三年七月四日	二八四
二二	小倉藩主上申書	「幕府へ」	文久三年七月晦日	二八六
二三	幕府達書	「諸有司へ」	文久三年八月朔日	二九一
二四	武家傳奏達書	「京都守護職へ」	文久三年八月四日	二九二
二五	武家傳奏達書		文久三年八月十三日	二九四
二六	巴里條約	一八六四年六月廿四日 元治元年五月十七日		二九五
二七	老中水野忠精書翰	「佛公使へ」	元治元年七月廿四日	二九八
二八	山口藩主毛利敬親書翰	「英佛米蘭提督等へ」	元治元年八月三日	三〇〇
二九	山口藩主毛利敬親書翰	「英佛米蘭提督等へ」	元治元年八月九日	三〇一
三〇	山口藩主毛利敬親書翰	「英佛米蘭提督等へ」	元治元年八月	三〇二
三一	下關講和條約		元治元年八月(十四日)	三〇三

三二	下關上陸規約	元治元年八月	三〇四
三三	山口藩士北條新左衛門書翰	「英佛米蘭提督等へ」 元治元年八月十八日	三〇四
三四	英佛公使蘭總領事應接要領	元治元年八月	三〇五

元治禁門の變

三五	朝廷御沙汰書	元治元年六月	三一
三六	山口藩家老福原元佃歎願書	「朝廷へ」 元治元年七月朔日	三一
三七	稻葉正邦書翰	「老中へ」 元治元年七月二日	三一四
三八	京都風聞書	元治元年七月	三一七
三九	京都長州勢討伐并警衛の配備	元治元年七月	三二二
四〇	山口藩主毛利敬親上申書	「朝廷へ」 元治元年八月八日	三二五
佛國關係			
四一	佛公使「レオン・ロッシュ」書翰案	元治元年	三二七
四二	勘定奉行小栗忠順等伺書	慶應元年八月	三二八

雜

一	陸軍奉行並願書	元治元年正月	三三三
二	陸軍奉行並軍艦奉行並願書	元治元年正月	三三四
三	横濱居留地掛上申書	元治元年十月	三三六
四	横濱居留地地券	一八六二年一月廿九日 文久元年十二月三十日	三四一
五	外人某建白書	明治元年	三四三
六	外交團へ布告書案	(別紙第一號)	三五〇
七	國內布告書案	(別紙第二號)	三五六
八	某意見書		三五九
○大君幕下預め定たる改革事項			
○將軍布告書案カ			
九	慶應三年十二月 江戸府内騷擾一件		三六三
目次			

○外國奉行通牒	慶應三年十二月廿六日	三六七
○同 上	「大坂町奉行兵庫奉行宛」明治元年正月	三七〇
○老中通牒	「締盟各國使臣宛」明治元年正月	三七一
○板倉伊賀守書翰	「締盟各國使臣宛」明治元年正月	三七一
○江戸及附近騷擾之件	(一)	三七二
○同 上	(二)	三七四
○同 上	(三)	三七五
○同 上	(四)	三七七
一〇 瀧川播磨守書翰	「松平大隅守等宛」明治元年正月四日	三七八
一一 明治元年二月 小田原箱根方面探索書類		三八一
一二 田中廉太郎書翰	「小林柔吉・津田山三郎宛」明治元年五月晦日	三八七
一三 田中廉太郎上申書	明治元年五月晦日	三八九
一四 田中廉太郎上申書	明治元年六月	三九一

鄰 艸

一五 鄰 艸

三九五

追 加

○川勝近江守書翰 「山口駿河守等宛」明治元年正月四日

四三三

附 錄

○舊幕臣川勝家家譜

四三七

○舊幕臣川勝近江守廣道補任

四五九

歐原文書翰寫

一	佛公使「レオン・ロツシユ」書翰 (譯文 一四七頁)	14
	「老中宛」 一八六五年四月廿一日	
	「譯文」 一七〇頁	
二	佛公使「レオン・ロツシユ」書翰 (譯文 一七〇頁)	4
	「老中宛」 一八六六年九月十五日	
	「慶應二年八月七日」	
三	佛公使「レオン・ロツシユ」書翰 (譯文 一七三頁)	6
	「老中宛」 一八六六年十二月廿二日	
	「慶應二年十一月十六日」	
四	佛公使「レオン・ロツシユ」書翰 (譯文 一八七頁)	8
	「小笠原壹岐守宛」 一八六七年十一月十七日	
	「慶應三年十月廿二日」	
五	佛公使「レオン・ロツシユ」書翰 (譯文 一八八頁)	10
	「將軍宛」 一八六八年二月十一日	
	「明治元年正月十八日」	
六	佛人「ビゲー」書翰 (譯文 一九四頁)	11
	「川勝近江守宛」 一八六八年六月十二日	
	「明治元年閏四月廿二日」	

七	佛人「ブリユネ」書翰 (譯文 一九六頁)	12
	「淺野次郎八等宛」 一八六八年七月十五日	
	「明治元年七月十五日」	
八	佛人「シヤノワン」書翰 (譯文 一九九頁)	15
	「河野左門等宛」 一八六八年七月十六日	
	「明治元年七月十六日」	

目次終り

在外幕府吏員等書翰

目次

十八

在外幕府吏員等書翰

原田吾一書翰「藤澤肥後守等宛」 元治元年正月十二日



向々薩人二人藝州二人都合四人當所に罷出旅館に尋來何か願書抔差出申候其内三人には旅館にて面會仕候尤漂流之名目也實は不然

一筆拜啓仕候愈御清適奉大賀候野生義今六日無滯上海迄著船仕候船中格別之義も無之候へ共何分始る航海故少々之氣味位之事御安心可被下就るは著船早速上陸英國旅館アストールハウスと申内投宿市中徘徊兼る之

新聞紙其外英譯もの相尋候へ共格別品も無之僅に別紙目錄之書御買上相願差上申候御落手可被下候尙明十三日佛船飛脚船に乗込十四日出帆香港に赴き候積同所は英華書院も有之位之處故尙又御買上之品相尋可申候歐洲は江戸之幸便有之候筈に御座候間御心附之事有之候は、御一筆奉願

上候倉橋氏之御書體に落掌仕候

一當所は最憫然難盡筆紙候歸后拜晤相期候折角御盡力奉祈候

一三國志 廿四冊

一水滸傳 廿四冊

一八大家 十冊

一小倉山房詩集 八冊

一紺寒詩文集 五冊

一三蘇文粹 六冊

一唐筆大小 廿二本

右之書乍御面倒小石川同心町辻番内新らき門の松浪權之丞に此一封御添御届奉願上候

一ブランケット二枚は小生所持之品に候間小生宅へ御遣し可被下奉願上候實は油紙に包み候へは宜敷候へ共此品無之に付間合にブランケットを

用候也幸ひ小生方に相送度候故旁都合宜敷に付相用候香港も一書差上候積なり故縷々不詳悉随分爲國御身御用心專一に奉祈候頓首

正月十二日夜勿々中亂文御高免可被下候

御買上之書目

一數理精蘊 七十二本

價廿八元

一英譯四書 二冊

價十四元

一漢英對譯辭書 一冊

價八元

其他之書物并筆は松浪權之丞方へ御廻し被下度奉願上候同人買求候品なり

川勝家文書

(封表)

藤澤肥後守様
川勝光之輔様

從上海

原田吾一

四

二 横濱鎖港使節池田筑後守等書翰

〔陸軍奉行宛〕
元治元年
正月十三日

以書狀啓上いたし候然は兼る御下知之趣も有之候に付御場所御備付可相成書籍別紙目錄書之通上海おゐて御買上取計候間御廻し申候此段可得御意如是御坐候以上

于正月十三日

河田相模守
河津伊豆守
池田筑後守

陸軍奉行衆

(別紙) 御買上書物目錄

一 數理精蘊 七十二冊

價二十八元

一 英譯四書 二冊

價十四元

一 漢英對譯辭書 一冊

價八元

總計七十五冊

外革箱代

三元又四分一

此價惣計

五十三元二十五セント

川勝家文書

五

(別紙)

- 一金壹分 正月廿五日日本船貨
- 一錢三百文 波戶揚迄陸揚船貨
- 一同斷 同日波戶揚人足運
- 一金壹兩貳分 運上所出波戶
- 一錢七百文 場迄持出人足
- 金壹兩三分 横濱芝田町
- 錢壹貫百文 上陸揚迄船貨
- 右之通 御田上陸揚
- 于二月 殿迄人足貨

三 川勝丹波守京極能登守連名書翰

池田筑後守等宛

元治元年 二月九日

子正月十三日附之御書狀致披見候然兼御下知相成候當所御備付可相

成書籍別紙目錄之通於上海御買上御取計御廻し被成儘に落手いたし候猶各國學科に係り候器械并書籍共必用之分は前書之通御取計有之候様いたし度存候尤書籍之分可成丈は一本二部つゝ御買上相成候様存候右御報旁得貴意度如斯に御座候以上

于二月九日

京極能登守

上京ニ付
川勝丹波守無加印

池田筑後守様

河津伊豆守様

河田相模守様

四 原田吾一書翰

藤澤肥後守等宛カ

元治元年正月十八日

當地にて種々御買上物相尋候へ共格別之もの無之付當地には何も相送不申候

川勝家文書

鴻便拜啓愈御清適奉恐賀候然ハ小生義先月廿九日横濱出帆今六日上海著
 船但し佛國之軍艦ナリ上海ハ佛國飛脚船に乗カヘ今十四日同所出帆當地
 へ今十七日著船何れも海上穩にて大に安心仕候御放念可被下候同所ハ同
 國飛脚船之稍大なるものに乗カヘ安南中サイゴンに著船之積但大概四日
 程夫ハシンガポール是も大概四日程夫ハセイロン是は概八日程夫ハア
 デン是は概十日程夫ハヌエス是は概九日程是ハ地中海を經パリスに趣候
 積ナリ

一上海にて御買物少々相送候定ル最早相届候事と奉存候但

數理精蘊 七十二本

漢英對譯辭書 一本

英譯四書 二本

一香港は案外宜敷地ナリ上海は廣漠之地下水最不好縷々申上度有之候へ共
 後便申殘候先つは平安信迄申上度如此に御坐候頓首

正月十八日夜

尙々倉橋森川丹州公其外様ハ宜敷御傳聲奉願上候

五 原田吾一書翰川勝光之輔宛 元治元年六月十一日

愈御壯健奉賀候扱小生も和蘭のヌガラーヘンハーグと申府へ落付申候御
 買上物之義ハ小生存寄萬分之一にも相成不申委細之義ハ松濤權之丞と申
 人に相托し置候間同人ハ御聞取可被下候二三萬兩も小生當に御差送被下
 候へハ小生存寄之品且即今緊要品相送可申候若又幸便無之候へハ御船出
 來之上持歸可申候此度佛蘭西ハ使節同國ハ傳習人差越候様國王御約束之
 趣に御坐候間必々貴所様傳習として御出相成候様御周旋可被成候御買上
 物金之義ハ其節御越被遊御歴覽之上御買ひ方可然と奉存候パリスハ傳習
 相成候上ハ小生も同所に引遷申度候間左様御周旋被下候様丹州公ハ御相
 談可被下候尤右ハ池田公御舍カラスモリに御座候間丹州公ハ同氏に御内談被下候様

御申通可被下候吳々も歐羅巴の御出之義奉待候書狀高に候も甚六ヶ藤澤倉
橋城富永小野其外の別紙呈上不仕候間宜敷御傳聲奉願候隨分時候御用心
專要奉存候頓首

從和蘭スガラーヘンハーゲ府

西洋七月十四日夜認

原田 吾一

川勝光之輔様

六 在佛栗本安藝守書翰

川勝近江守宛 慶應三年九月廿三日

此度石川岩司歸朝申渡候是は何も別段仔細有之候義には無之候得共小生
一行素々隼人正殿へ御用向申通候迄に立歸り之心得に被 仰付候得
共御借銀蝦夷地等小生一己に御任相成候御用向未だ混沌未分前便申上候
通之次第柄に報命可申上様無之候間徒にクレーイ舉動相待居無據兩三
月之淹留に相成可申存候に付左候は第一御用意金至る手薄也右之内空

費候は夫丈之坎穴と相成候間歸朝申渡候義に御座候田太も愈歸朝と相
決候間右同船に致申候出立前但州日州岩司長く留置候は局務差支候
に付可成早く相歸候様囑託も有之旁右様取計申候決る御懸念被遊間敷候
○和春も殊之外改心此度之翻譯物極出精既に出来も仕候間クレーイ箕作
貞一にも校讀爲致候處何も至極可然旨に付淨書出来次第兩三日中事務大
臣の向山同道持出し候積に御坐候鹽田三郎譯書及留翁御國書未だ到著
不仕夫は少々不都合に候得共和春之譯正明に出来之上は御差支無之と存
候間取計候心得に御坐候○伊太利國にガルバリヂーと申者叛逆之企有
之其論に世界各國皆帝王有之候故動亂無休期下民難溢に至候間各國帝王
を滅候方天理に順候義也逆同類相催し各國中其論に服し候者許多に至り
候に付伊太利に右之者召取鞠罪之上配流致申候前日之事に小生瑞西の參
候節向山之話に昨夜ガル
バルヂー當地著致配下差越し向山にも同意
可致承知候は、帳面は名前記候様申候趣然る處其黨類一揆相催し此節可也動
亂之由佛國の昨日軍兵二萬伊太利境に打入同國々王返答次第直に戰爭に

及候趣新聞紙にも出其前和春も相話し申候伊國と若戰爭に及候節は宇漏生其虛を伺獨逸中佛と和親之國々和蘭之類攻伐可致候迎佛のライ河之側は五萬餘軍勢差向備置候趣御坐候夫とは御存知無之唯御尋問之爲め公子も昨夜伊國御著相成候得は愈今頃戰爭に至候得は實に好き御見物被遊候事と一同御羨敷奉存上居候○此國事務執政ムスチエ義溫和之人物には御坐候得共因循家に物望無之不遠退役被申付候様可相成と専ら風説仕居候代り之義は此程迄前任ロアンドイスに可有之旨申傳候處昨今之處に於は當時之國內事務執政某なる者代り可申由噂有之候○博覽會も最早弩末に至候處獨逸帝は御國押送船と一同昨夜到著相成申候○長崎表切支丹一條過日外國局東洋掛汝不瀾の委細相話候處同人義至極承知致し居曲に事務執政の可申通尤魯節を其前詳に申越候間何にも御不都合無之様精々取計可申旨相答申候○隼人正殿御工風之金子も 公子英國御尋問濟迄には御遣拂可相成見込又博覽會被賣物代料も隼人正殿各國御巡回入用之

方及跡役々立拂會藩引揚げ方始末も右御金に於仕拂埒明候様御振向け相成候事故小生は唯々御渡し御用意金而已に於別段心當り無之候得共前便申上候通極少人數に致し節儉致し候へは半年位は籠城出來可申其中には必成否之確報申上候様相成可申候間其節は速に揚帆東歸仕候心得に御坐候○縫公淺公服兄の囑物軍服丈は是非出來可申心懸居候間時義に寄其御地に於代金御下ケ之積に於クレーイの申談候様可仕と存候間御序之節程能御噂被下度奉希候○全權保傳之和春打拂方餘りに過酷之様被存且和春も切薄愁訴致候間是迄數度取成し忠告致候得共採用無之強而論候へは居合にも拘り可申存候其後先控居候乍去薩藩岩下某之兒其他にも當地潜伏致居候様子且モンブランも其内には歸著可致其節は又候何様之巧み可致哉難計旁和春幸に悔過謝罪も致候事故前失を赦し收用相成候得は極御都合にも相成可申存候得共何分不被行去迎此儘に致置小生罷歸候得は必再怨恨を抱き萬々一國家之御爲め不宜或は御不睦之端をも醸し候様に於

は實に小生而已ならず全權保傳一同恐入候譯故此一事には深當惑配慮罷
在候何と歎可然御工風も有御坐間敷哉歎息々々

全權保傳之和春を拒絶被致候は到著早々之事に新開紙杯之事は
却る左程に響不申候

此一段御覽後御火中

傳習生徒保科山内之義其内傳習生一同到著致候は、其方の戻入之義申談
候處是亦不被行 公子御附添被仰渡居候者故 公子佛語御諳熟御差支無
之迄は御免相成候は御不都合之旨被申聞候 公子御不都合と有之候は
は争兼候故先其儘に致置申候○此國にても日本語學相開申度目論見有之
由に付過日の節々外局に迫り置申候近日十四五才之童子廿人程相撰傳習
開業と迄は承候へ共例之因循故其内又候相迫可申存居候是件にても出來
候得は和春も食物に有付き可申間左候得は一方之防は相立可申杯専ら工
夫致居候申上度件々猶山積致候へ共先是に切り揚げ置餘後音又々可申

上候已上

九月廿三日

近江守様

安藝守

川勝近江守様

内事御直披

栗本安藝守

緘

尙々書中伊太利國騷亂之義認候得共昨日之新聞
に既に和平に至り佛國にても兵を引揚候様相成
候趣に御坐候拾萬之兵を起したり止たり實に造
作も無之には驚入申候 九月廿七日追記

七 在佛向山隼人正上申書

慶應三年九月

卯十二月六日壹岐守殿の上る

佛人メルメツトカシヨン并英人シーボルト義に付申上候書付

向山隼人正

民部大輔殿御出立前佛公使申上候趣も有之御同人巴黎斯御著之上は博覽會周旋方諸事之談判筋通辨等佛國都府在留メルメツト和春義御國永々在留致深く事情も相心得且本國之者にも有之御都合相成候事故民部大輔殿御附教師國事談判筋之通辨等相頼候様可仕英國シーボルト義は素々船中丈ケ御雇之筈に付一と先御雇御免申渡候様可仕旨當五月十九日井上河内守殿御勤役中被仰渡候御書付八月朔日佛國巴黎斯に相達奉得其意候然處民部大輔殿御留學之義に付るは御國書を以佛帝に御頼御前様方々彼國執政に御書翰之趣も御坐候に付當五月中山高石見守一同評議之上教師人選等之義は彼政府に爲相任候積外國事務執政に書翰差遣候處兼る御國書御書翰等も有之候義旁佛帝執政官共へ格別に心配評議之上コロネル官名ウイ

レットと申者撰定致し公子保傳教育之任を授け候趣申越其後右之者御旅館に引移同人之薦擧を以ボツシエルと申もの語學御教授として御雇入相成御稽古御始右之もの格別骨折御教授申上居候義に猶追々御學科之次第に寄教師人選等之義は專右コロネルに委任致候義に御坐候然處前文被仰渡之趣も御坐候に付得と勘辨仕候處右様御國政府御趣意を以カシヨン御頼之義強る申入候るはコロネル之意にも應し不申隨る佛帝始諸大臣之氣配にも拘り可申哉横濱在留公使義は當地おゐて右等之御模様相成候義承知不仕以前申上候義に全遠隔行違に相成候義と推考心配仕候得共被仰渡之趣は早速外國事務執政に申遣いつれにも公子御爲宜敷様決定致吳候様申遣候處于今右返書は差越不申候得共前文之次第に付教師之義は暫く彼方に依頼致置候方却る御都合可宜哉に奉存候尤通辨之義は是迄も多分はカシヨン相用居候義には候得共猶被仰渡之廉を以向後共御國事等之通辨には同人相頼度段改る事務執政に申遣候且又シーボルト御雇之儀に

付るは栗本安藝守申談不都合無之様可取計旨其後被仰渡も御坐候に付同
人にも得と申談候處只今差返候は品々不都合之義も御坐候間今暫く差
置委細は追申上候様仕度勿論右之者義は是迄迎も御國事等廉立候談判
筋通辯爲致候義は無之候右之段栗本安藝守山高石見守申談別紙佛國事務
執政之書翰寫相添此段申上候以上

卯九月

八 向山隼人正書翰

佛國外務大臣宛 慶應三年九月廿六日(前書別紙)

佛國外務大臣

エキセランス

マルキームスチエ

以書翰致啓上候貴國人メルメット・カシヨン義我國に久々在留いたし深く
事情も相心得候者にて殊に横濱在留貴國公使申立之趣も有之候に付民部

大輔殿教師國事談判筋通辯等相頼候様可致旨先達る江戸執政方申越候處
教師之儀は其以前マゼスチ國帝より被附候コロネル・ウイレットの撰定を
以ボワシエールを頼置候儀に其邊はコロネル・ウイレットより貴君に相
談も有之候趣に付右に別段異存無之候

國事通辯之義は是迄もメルメット・カシヨンを相頼候義には候得共猶我政
府より申越せし趣を以向後共國事通辯には同人相頼候様いたし度候間御
存寄も無之候は、其段改るカシヨンの御申渡置被下度存候右可得御意如
是御坐候拜具謹言

慶應三年九月廿六日

向山隼人正

九 在佛栗本安藝守書翰

川勝近江守宛 慶應三年十月二日

極内

此回山駿迄秘書壹篇差出申候右之御答は其御地正月佛船に非御差立

相成候様御盡力被下度左候得は三月始には當地必達に御坐候間去留相決し去之方に候得は同月廿二日にはマルセリ出港致し候様可相成候若又留之方に相成候も向山之後任早々被仰付來四月御地出立六月始には當地著可相成左候得は七月は是非共出港可仕様仕度候誠に妙な羽目に出逢陷穴に落候様之心持に御坐候間何分にも御救出し方精々御盡力奉冀候一身之事而已を考候得は年内には御用濟出帆被致候得共夫に之は跡々大變閣參方御始御主意も貫き申間敷と存し旁啼々辛抱仕候義に御坐候間幾重にも御憐察可被下候

傳習生之事如何相成候哉外向御取人相成候に決候は、學問吟味又は素讀濟之者御撰無之候之は何之益にも相立不申候劣も因も分別無之者被遣候之は成業之上アメリカ彦に相成申候間篤と御熟考可被下候尤何時此地に參り候も更に差支無之様クレー共兼之談示置候間此邊は決之御懸念被下間敷尤御入用等は御使節とは別に組立決之混雜無之様取計可申候

少々にも御用向目鼻明き次第翁にも文通可仕候得共夫迄無沙汰に致候間御序宜敷デロヲロ和春の文通之中御傳言有之候趣和春唯今相話申候此節奧地利帝滯留中饗應其外各國公使は招待被致候得共日本全權は相招不申候由何故に候哉相分不申候
右申上度草々不備

十月二日

安藝守

近州様

尙々船中以來洋酒而已に之一向旨く無御坐候間禁酒同様に御坐候右は至之大丈夫には御坐候得共更に面白き趣無御坐候御一笑

川勝近江守様

栗本安藝守

御獨見奉冀候

一〇 在佛向山隼人正栗本安藝守連名書翰「川勝近江守宛」慶應三年十月三十日

川勝近江守様
 御直披
 向山準人正
 栗本安藝守
 拜復

丁卯十月晦
 法國巴黎
 謹封

尙以時下千萬御自玉所祈候石見守の宜敷申上候様申聞候

八月十四日之御内狀十月廿六日相達拜見仕候然は七月中佛翁上坂之趣意并同人に被遣候御直書御書翰寫共御内示被下大に心得にも相成難有候尤長崎宗旨一條は先日兩人にも被仰渡候趣も有之早速此地外國局にも罷越御趣意徹底致し候様申聞置其後承り候へは當地外國執政の口セス方置處之儀申遣候哉に多分御不都合は有之間敷と其筋之者申聞候薩に佛人雇入候儀は於當地種々風聞は有之候へとも耽と取留候義にも無之乍去

御申越之趣も有之候間猶穿鑿致し相分り次第可申進候英水夫於長崎殺害被致一件英公使苦情申立候に付圖書殿土州表へ御發船に御談判相届き夫崎陽へ御廻り之由扱々種々之御難事差起り御一同御心配之儀と遙に奉拜察候貴地之御模様貞次郎にも委曲承り御尊申上候生徒も一同無恙到著昨今居宅も取極りクレーイ差歸り世話致し居候御案事被下間敷候準人正の申上候民部大輔様其外留學と相成候上は一ケ年一人當何程と申御入用取調さし出候様會計局總裁の御沙汰有之候趣承知仕候右御入用之儀は先便石見守連名に申上置候趣も有之定御手へ御下けも可有之と存候乍去右は未だ大凡之見込にて取調候儀に付彌御留學と被爲成候へは諸事格別に御省略相成候義と被存候間猶被仰越候趣を以石見とも相談致し精々御入費不相懸様壹人當り取調追可申上候公子にも來る十一月五日英國へ御出之積是迄各國御順歴何れも鄭重之取扱に諸事御都合能相濟大安心仕候英國之儀も聊御懸念は無之儀と被存候安藝守持病之痔疾に先

日より難儀致し候に付此程當地外科に相懸り一勞永逸之療治に取懸り追々平癒に赴き候間必御案事被下間敷候先日中は以多利ガルバルジローマとの一件を争端差起り一時は佛も戰艦并陸軍等彼地へさし渡し餘程六ヶ敷き形勢に有之候處先々平穩に相濟昨今は追々兵卒も引戻し全く平定致し候貴地御開市等に別御繁務と遠察仕候御同僚諸君にも宜敷御致聲口セスにも同様奉願候拜復旁如此御坐候頓首

十月三十日

安藝守
隼人正

近江守殿

追啓八月十八日之御一書本月廿四日英國川路太郎を當地へ相達拜見仕候右は御返書之儀に付別段御再答は不申上候 隼人正

一 在佛栗本安藝守書翰「川勝近江守宛」慶應三年十一月朔日

八月中兩次御差立御書一は豚兒貞次郎持參
一は英國が相届候

過日投筆被仰越候條々謹承薩人岩下佐治右衛門義佛人相雇候云々之義モ
ンプランは右岩下と同船御國に相越候に相違無之候得共其餘何人程參候
哉詳悉難仕尤右は小生到著已前之義にマールセリ著之節ジュレイを承知
仕候間其前定之全權を申立置相成候哉と存居候當時當地には岩下倅外壹
人何も少年潜伏留學罷在候趣御坐候間是は早速探索申上候様可計候其餘
之件は全權兩名御報に御承知可被下候小生義痔疾逐々不宜殆癩人同様
に相成候間斷然果決去月念四麻藥相用截斷治療爲致申候指頭大之贅肉六
枚切下致し已來脱肛之患を相除申候得共何分にも大荒療治之義に付創口
急速平癒致兼登固之度々直腸綻裂鮮血滴々其痛矛戟亂刺致候如隨分苦悶
を極め申候半百之齡既に衰老を兆し乍居無謀之暴舉致候杯御嗤笑も可有
之哉不存候得共當地外科は至る精良にも有之大事は決る無之と存し定め
決斷致候義に御坐候處果る逐々快癒に趣候間此分には必御案事被下間

敷近日出勤 公子英國御發途には 御見送も出來可申存居候○御用向猶
申上度義も種々御坐候へ共幕中不自在に付逐る後便申上候様可仕候草卒
不備

十一月朔日

安藝守

近江守様

尙々此回生徒御遣しは此方之都合極々タラビヤンにホクレーイもフロ
リも能々周旋和春も能々兩人申付相守り同様骨折居候間大に安心仕居
候御入費杯も格別相省け申候間必御降心可被成候已上

(封表)

栗本安藝守

川勝近江守様御報

一二 在佛栗本安藝守書翰〔川勝近江守等宛〕慶應三年十一月十三日

九月十七日御認め御用狀十一月十日當府著拜展仕候向寒之節御坐候處各

位倍御清健珍重此事老拙不相替一頑如鏡配下亦皆同様御坐候間乍憚御休
慮可被下候○扱今般壹州之御書取通例には愕然可仕處此方兼る覺悟
致居候事に御坐候間かゝる時さこそ命云々の歌を思出し大悟徹底之心得
に更に驚不申仔細は前々之數度申上候通八月中當地著仕候處種々不折
合之廉之往々御交際上迄響候様成始末柄も相見何分難捨置場合之遂に慨
然自任一己之利害得失を顧るに不遑様相成加之コロチルフロリヘラルク
レーイ和春輩十分に網を張り待居候處は無何氣參り候事故スボンと陥井
の落入候始末に就旁逆も不叶事と往生致居候間今更甚敷き後の付も格別
びくと不仕候得共此方十分御安心之場合に至り小生見込も相届候上は殘
喘餘魄を保ち米之飯と酒に有附候御救助之程偏に奉冀候間從唯今此義御
噂置被下度奉存候○清水公子當月六日英國に御出立同九日女王御謁見も
相濟候趣彼地報告御坐候パークス持論と本國政府とは格別之相違にホ必
鄭重御取扱申上候事と奉存候其譯は先頃マルタ島英領御巡廻之節同様此度

も別段軍艦仕立佛國迄御迎に参り崙頓於るは御旅館之設を掛り役々迄夫々申付有之且又シイボルには別段旅舎も用意致置候旨此方滯留公使の本國之命を以申参り候程之義に御坐候間左様御承知可被成候○此一段喰切に而向山氏は歸朝シイボルは御暇と申事に決定致候間先々此方御都合は大に宜敷相成申候○扱又其後之一段は山高氏一條也田邊歸朝之節爲持差出候駿州宛候内書中平参政に呈する一書定而御内見も被爲在候事と存候右書中山高論有之候通留學生に相成候共又は歸朝相成候共何之道一旦保傳は御免不相成候而は不相叶事と奉存候仔細兩件左に述候間御覽判被下度奉存候○公子御旅館入費之内實に無益に屬候廉々有之家賃御飾付道具類之高價は今更致方無之候得共外國小遣七人并に御附屬人員御賄料等は減少致候迎更に御不自由には無之候間可成丈御省略相用度尤コロナル御附申上候以來餘程節限相立御賄も上中下三等に致し七磨食事之匙杯磨役と申無用之小遣を打拂候得共猶餘程可減條々有之處石州何分不肯拙義此義

に付而は随分論し合候得共詰り公子を粗略に致し強而御手許を詰候様に計被聞取候間極力論破致兼候木村宗三御雇御附之者杯も老拙同論に而銘々實に御無益勿體も無之事と能分り居 公子にも既に御直に旅館并什具立派過ぎ三條御旅館に對而も甚恐入仕合然る處國柄も違候故如此無御坐候而は御體裁に拘候由隼人石見申聞候間住居致候得共中心甚不安且第一第二之坐敷は華麗過候間第三之坐敷は已下位に而相當之旨老拙に御尊も御坐候次第に候間事實申上御小減相立候迎決而御不足には不被思召候事受合に御坐候然る處前文仕合に付老拙輩隊を容候事不相成空敷目にも不立冗費は外國人之棒先を掠候を袖手傍觀致し居候計御坐候○先達石州の御旅館壹ヶ年御入用積り差出候に付是も老拙數度催促に及ひ向一見之上夫々御減し方申立候得共更に不被用其内甚敷は御學問入用餘り御多分也逐而は兎も角も唯今之處に而は未語學も御出來不相成に付教師壹人に而可然旨申入候處 公子舍密科御學にも相成候得は御器械御買入等に而此拾倍

も相掛可申杯と卵を見る時夜を求候同様なる論を吐き出し受太刀途方に暮れ候計也是と申も最初基立之節シイボル叔父と歟惡意と歟申者呼入御賄致居候に付勝手に取極御賄方は不及申諸買上品等も餘程高直に到候由此者コロナル加之田邊御入用筋更に不相辨人物に唯々此前池筑河豆御使参り後打拂候節之時巴里六旬之逗留に八拾萬フランク之御入費相掛り此度は公子之御身分に既に半年を過候得共未た其數に至り不申候間多分之御省略と申居候説共先入致し居旁石州保傳中は公子館御入費は老拙何共申上候事出来不仕候

今一條は石州極々英國之制度文物を慕ひ一行之人盡排佛コンベニを結居候間佛人を惡む仇讐の如くナポレヲンを目して誦詐之魁と稱し可成丈公子之御親炙無之様致しコロナルと極不和に日々議論不絶所謂始終いぢり合又は愚弄致候間自然 公子もコロナルを御疎略被為在候様成行可申は流石之茗荷草鞋連中も殊之外心配之様子に内々訴出候義も御坐候

前年中にも大井六郎左衛門服部潤次郎杯は年輩にも有之至平穩之様に被存候 過日マルタを御歸之節フロリヘラル御旅館に参扣石州に對し無益之離島御巡廻徒に時日御費し御入用も隨而相掛候旨申出候處大怒に散々に罵詈致し御交際之事は汝輩知る所に非ず大君の命を以る各國御巡廻被遊候得は御入用何程相掛候共不苦旨申出フロリは温厚長者に候故絨口致候處餘怒所及遂に長崎宗法之事に到り洋僧駢首可斬と申候に付コロナルフロリ怫然とし其説を詰問致度旨申出候處腰間三尺之氷は祖宗之嚴禁を犯候者を戮する爲也と申聞候由兩人共夫切に和顔論は止候由在坐之者愕然と致し候趣に老拙は内話致候老拙義も實に驚き候間在蔭中痛苦を忍持疾切斷フロリ呼寄何と無く石州人物に涉り様子相試候處一向取合不申彼は小兒に一時客氣に乘し暴言吐出致候得共中心正直に御坐候間向山去りシイボル離れ候得は自然心弱りコロナル之意に順候様相成可申夫共何時迄も唯今同様に候得はコロネルをナポレヲンに奏しナポレヲンを書面を以て公子御爲不相成候間御引替被

成候様可被成旨 大君の申上候様可仕 大君御目鏡を以被遣候人物彼も
不宜是も悪敷と私共の申立候義は不仕旨申聞同夕クレーイも參候間是亦
相尋候處フロリ同様之論申聞候間察する處彼等には既に談合行届兼る腹
糞致居候事と被存一時安心は致候様な物再考致候得は石州人物含蓄に乏
敷御坐候故歩兵頭には有餘に候得共海外の出幼主を保傳致候任には迎も
叶不申間此上共終にナボレヲンが引替申立候様成珍事働申間敷共御請合
難仕愈左様にも到候節は眞之閣參にも御出張之上保傳其撰を謬り甚謝
入なと、申段に到御失體を極め候間少々刻には候得共唯今之内一棒相加
候方却る當人終身之爲めに相成可申存候○過日向山石州御用向談合之節
拙者在幕に付三田伊席に連候處來春引續字魯御巡廻相成候旨石州發言致
候に付三伊義安藝守持參之御直命も有之字は幸彼が御延引申出候事にも
在之旁以暫御見合之方可然と申出候處同人答に最初之御命は 大君御意
中より出候眞之命に候得共再度之御直書は魯節杯の種々之義御聞込相成被

變候義に付恐入候得共亂命同様にも奉するに不足と申聞候付三伊も歎息
し狂人と論を致候も致方無之逆然仕旨相話申候舌頭計敷は不存候得
共右様之調子には末々誠に被案事更に落意不仕候間兩件得と御勘考之
上御英斷御坐候様仕度候
老拙義極力前行兩人を排擊致候様相聞何共恐入候間可相成は鑑察壹人御
遣相成此方事實御糺問御坐候様仕度此段被 仰立候様幾重にも奉冀候○
三伊は向山氏と極々莫逆之者に御坐候間寧ろ回護は致候共決る許き候者
に無御坐候此度英の陪行歸後向山氏に従歸朝可爲仕候哉存候間愈左様に
も至候は、此書之趣御直聽被下度奉存候老拙天に誓一點之詐偽は不申上
候幕中執筆猶艱、不免龍頭蛇尾、御寛恕可被下候已上

十一月十三日夜

安藝守

駿州

甲州君

川勝家文書

三十三

一三 在佛栗本安藝守書翰

「川勝近江守等宛」慶應三年十一月十四日
御報套語省之原市惘然、向休昇天之勢美蘭件承諾、陸軍ミニストル未だ一面無之候に付此件に出張面會も甚まづし外に一策あり公子御附塚但早く來れば大に善好、此地薩之事を決る御心配に不及、長崎表洋僧是亦同斷、御國律琉球記件至極鯨尾安、パークス件拙一策あり行不行は難計候得共、施して見度物也書末に陳述せん、縱然不行も更に後害なし、九月十七日月光如晝夜駿甲二兄集會御裁書と申事其跡必御一斟と甚御羨敷存候此興に孤負する既に半載殆不勝情候梅酢に齊しきボルトウにあは何分懷を遣り兼申候御笑察々々此事服仙人の御傳語奉願候○佛人フロリヘラルトは正直温厚前一行之人皆譽居候君子小島源兵衛州に富且儉なる者所憾は氣力稍乏、コロチルは樸直輕忽に乍怒乍笑蓋し武官之常にして可愛和春は御承知之通外柔内殘なれとも其きゝ所を押へ候は、甚

御し易し、クローレイは略も可有之氣力も頗盛なれば前三人を籠絡して一言も無く驅役せり故に此者と談すれば餘程面白く御坐候乍去此方にあも隨分氣を取締て交不申候あは輕侮を招可申と中々骨折れ申候、此人甚子供を愛する癖あり日木兩耀日には必己の子を連れ生徒不殘引連簇々擁行所々見物遊歩致候黃人十輩餘ぞろ／＼連行之事故途中人立致しシノワ／＼ジャツボン／＼と喧呼取圍候得共更に意と不致厭避之氣杯は勿論なし且二三里の道を歩行候あも一錢も不遺真に犬之河端也拙一度附合咽渴脚疼懲々致し其後は定式斷と極め申候、可憐シ生徒輩何が面白きや同人之誘引を極樂み居申候同人も亦極々生徒可愛き様子也江州に贏る一籌と云へし、フロリ、クローレイ之疵は極惡食を好み朝飯杯は鹽肉一片尤薄切にあパン三塊位喫下し其跡水を飲候計也被招を却る迷惑致事度々御坐候、尤故らに招くに非ず御用談時刻に差かゝる時也夕飯と雖も夫に準し粗惡也和春計流石通人にあ隨分口に適する物を供し申候、生徒輩シヤンゼルセイ旅店引拂之節和春貞次郎フロリ三人



に参り逆旅主人に勘定之節フロリ壹人に蠟燭之燼掛け薪之燒殘一々盡く差引相立逆旅主人と殆喧嘩の如く辯論に事定り候由和春貞次郎共不堪して席を避け候趣なり此旅店フロリ近隣に右は極無用の瑣事に御坐候へ共佛人之性外奢内儉御國京師之人情に能相似居候間此方に亦能々氣風吞込思ひ切而儉約相用ひ候得は却而尊信致し金子融通等も致候得共御入用等取締も無く遣拂候得は甚疎み遠かり候様子之根元一端を申上候迄に記申候其辭商人共他國人に財を爲遣候事は極上手也動すれば喫ひ易し○フロリは金のメタールを戴度計に是迄三ヶ年唯御用相勤居其内當年は公子博覽會生徒等に御用も餘程繁敷間を費し奔走更に難色無し眞に善人君子也且勘定等も至る正敷一毫之私曲なし夫故向山田邊之佛人嫌に亦賞讃不置候近日相談之上建白致し候間閣老方御賞詞に亦頂戴爲致度事に御坐候空格のコンシユルゼチラールは餘り氣之毒也○ジャマント婦人の頸環其價八萬フランク壹萬六千弗なるをフロリ細君の爲に買候積りに亦少々直段押引未決中忽然アンペラ

トリスの皇妃に被買上殘念に存居候是迄頃之事向山氏も能存知居申候佛人外奢之一證迄に申上候○過日議政堂之開場有之向山氏三田同道に参り申候佛朝滿廷之文武諸司百官不殘盛服相揃候處皆々五拾有餘之人物計に亦禿髮白髮難面凍梨色壹人も白皙壯少之者不見當候由に亦兩人共殊之外慚愧致候旨歸後相話申候且云く佛人毎々恠み問ふ山高は其官公子之保傅保科はコロチル並少年に亦能く發達致候日本は餘程成材の速なる御國に亦實に堪驚歐羅巴に亦は亦も此様には成立不致と申候間大に御國人之敏捷を誇居候處今日議政堂に佛官は不及申各國在留公使輩迄皆者老に亦大に辱を取候由此話拙輩老人之爲めに大いに氣を吐く快甚矣々々拙所知も外國事務執政ムスチエ其次サワリエー其次某其次ジョツブラー四人共屢次面會皆魯節年輩之人物也併伶俐善響御國老人之職々たる如き者に無御坐候拙考に亞細亞は餘り酒食無度故人之精神早く耗する歎又は不學無術故流行に後る、歎何れにも役人之老人は大抵困り物計也○當國に亦

も愈日本語學相開候様議定致し十四五才之童子凡貳拾人程人撰近日横濱
の差出候様相成申候趣過日ムステエ向山の相話申候御厄介物は相増し
候得共御親睦は益厚に至可申と存候○拙過日ムステエ面話之節當國に參
り演劇サンゼリヤン見物致候日本紅皿欠皿之話と狂言之仕組能相似る至
極面白覺候唯言語不通之悲しさ哀樂喜戚之情は察し候得共御國人之如く
拍手感歎之場合に至不申候 大君之語學生徒を當國に被遣候旨意は當國
之哀樂喜戚を察知する迄に無之能其言語を解し日本國中拍手感歎爲致度
思召と被伺候是親睦之第一に候間ナポレオン帝も定る御同様に被存候事
と存候間日本學は是非早々御開之方可然存候旨申述候處ムステエ之對に
日本之演劇は未見に付拍手感歎之場合は更に存知不申候得共使節唯今之
御口上には拍手感歎致候迎相笑申候事務執政は矢張御老中に御座候間面
と向ひ議論致候は必敗北を取候間ボンとハメ候手矢張宜敷覺候此段小
栗上州の御傳語且御序も御坐候は、防州縫公の同斷○パークス不相替亂

妨相働候由可惡何歎痛手を爲負遣度物に御坐候拙出立前賀州の極内に
若引替之手段も有之候は、時日相掛候も不苦其術施試可申旨御話御坐
候差當是と申手段も別に無之候得共當地在留英國公使は本國に物望も
有之人物宜敷且公平之由に承候間逐々懇意を締ひ話次少々宛索引試候上
若被行候様にも見受候得は博覽會店晒品にも投し置來春に至り 公子
此度英國に手厚之御待遇申上候御禮謝旁龍動の押渡り事務執政は公然
に無之引合當國在留英公使之書狀に暴白爲致候様之仕方致見度と存候
左様にも相成候得は此方は傍觀に彼之棒に彼を打候譯に候間行不行
共此方關係も無く極妙策と存候パークス増上寺駒寄飛越以來附屬士官迄
是迄之暴行ケ條月日御調御遣被下候様仕度奉存候消閑之娛樂に前文之次
第唯今徐々に下染に取懸可申候此度之書狀貳通は病間思付次第亂述致
候間唯御閑次に御廻覽可被下候阿々

十一月十四

安藝守

駿州様
甲州様
江州様

唯今龍動に到着向山氏三田手紙彼地御模様御安意之爲め封込差出申候
此地當節滑稽殊之外流行何れも達者に相成り箕作貞一洒落語箋之著述出
來其内之秀逸左之通

ガラス明けても暮そな模様

原語 烏啼ても知れそな物よ

メガルシャツボウ外が花

原 津輕八方外ケ濱

女婢 帽子 ロアンドロイス博覽會が榮へ

原 おまん何處行く油買に茶買に

茶屋賣れないで首縊るとわ

原 唐紅に水くゝるとは

日本商人難波申立候故なり

酒左程には飲めはせぬ

原 先左程には思ひやせぬ

一三ノ二 在英向山隼人正山高石見守連名書翰

在佛栗本 慶應三年十月十三日 安藝守宛

一昨十一日之御書狀昨日到來致拜見候然は八月廿四日九月十七日附江
戸御用狀去る十日巴黎斯到着に付御兩名充之分御一覽之上御廻し落手
致承知候

一貞芳院様之御返書并宅狀等落手致候

一貴様佛國御滞留之義に付御書付寫一覽被御申越候趣民部大輔殿へも申
上候

一公子倫敦御著去る九日女王御謁見相濟候義等は去る十日申進候間最早
御承知之事と存候爾後當地御取扱振彌宜敷心障之義も無之候間御安心
可被成尤可成丈け御早く御引上げ之積に候得共日々所々御見物等之義
申出何分無下に御断にも難相成未御出立期日相定候場合に至り兼候得

共いつれにも廿日比西洋十日迄には是非御引上げ之心得を以彼方氣配不
損様夫々引合居候事に御坐候付は来る十七日西日英郵船出帆日に候
得共差急き江戸は可申遣程之事件も無之英御尋問濟御歸巴之上に委
細申上候方却可然哉に付今便は當地は差出不申候
右御報旁如此御坐候已上

十一月十三日

山高石見守花押

向山隼人正花押

栗本安藝守様

一三ノ三

在英向山隼人正書翰

在佛栗本安藝守宛 慶應三年十一月十三日

十一日之御一書同十二日相達拜見仕候江戸御用狀到來に付御廻し被下收
手仕候老兄は被仰渡は乍御迷惑於弟は大安心何卒御勉強所祈候當地至
る時氣悪しく日々霏雪奇寒疋骨一日も早く歸巴致し度と存罷在候處御附

之士官など所々御案内申上度旨申出何分むけにも御断切難相成困り申候
尤御著以來御取扱振等は至る宜敷大砲製造所へ被爲入候節も全く國帝同
様に祝砲も二十一發つ也ドール御著之節も同様に候間先々御安意
可被下候明後日外國事務へ引合に参り候筈也右見込通りに相濟候は、別
る安心と存罷在候博覽會品物卯三郎品々不都合申出候に付淺吉被遣委細
承り猶商人存意爲承候趣別紙書狀中に申上候間右之趣に御處置被下候
老兄今に御在席之由御案事申上候折角御自玉奉祈候今晚淺吉出立に付早
々拜復旁如此御坐候頓首

十一月十三日

向 榮

匏 庵 老 兄

一三ノ四

在英三田伊衛門書翰

在佛栗本安藝守宛 慶應三年十一月十三日

幸便拜啓仕候爾後尊體如何被爲在候哉定る逐日御快然之御事と奉遙慶候

川勝家文書

四十三

當地公子にも益機嫌能一同無恙乍憚御休慮可被下候扱倫敦之義兼々及承候通り廣境繁華實に肩摩穀擊とも可申勢に有之しかし美麗は巴黎斯には一步遙り候様に相見候得共家屋等いつれも堅牢質實壯大之處は又一層勝り候處も有之哉に奉存候但々日々曇天飛雪寒威甚敷著後未一日も晴天無之朦々朧々雲霧中に籠りし如くに唐太などは斯も可有之哉と氣分鬱結難堪候得共道路泥濘且寒風に怖れ夜中遊歩等も出來兼僅々日數最早一同倦果日夕歸念を促候のみに御坐候市店賣品は大抵巴里に替り候物も無之哉に相見へ候得共玩物店は巴里に比し候へは稍少く相見へ申候何歟珍敷安物見當り候は、買入持返り入御覽度候へ共何分通辯人シーボル一人貞一は可也通し候へ共御承知之足疾旁例之替無筆にては獨歩相成兼更に出行も不仕候いつれ不日歸巴萬縷可申上候○博覽會商人荷物一條彼是御面倒之義に奉存候兎角ぐらくには困却之至に御坐候此度愚拙承糺候事實は別番準人正殿御返書之通に有之是迄之處全清作之談し方には何

歟商人共腹に落兼候義も有之雙方行違も有之哉に被察候何卒荷物取戻し之義はフロリへ御直談一と先商人共へ相渡遣候方後日迄も穩當之御所置と奉存候間御合何分奉願度奉存候乍去例之天王政府又々ぐらく不致様にと過慮仕候義に御坐候
 尊君様御義巴里御滞留被爲蒙仰候段承知仕御堅勞奉恐察候乍去兼之事情實に無御據御都合と乍憚奉存候○御國も兎角不穩又々ガルバル黨出來のよし歎息之至に御坐候○當地別に新聞も無之名しやれも出來不仕貞一御督責之趣は早速申達候處同人義は精々勉強既に昨日江戸御用狀中之新聞にて即坐

〔原市くびとりはらをきる〕 原語 はれいちこまどりはれをつく也

〔ロイド川路が當惑だ〕 原語 どうりでかぼちやがとうなすだ

右等之手際には有之候間下達之御心配被下ましく候先は不圖幸便を得御別後之御容體伺旁倉卒呈一簡候不悉

事實口傳妙

十一月十三日燈下

安藝守様

伊衛門

一四 栗本安藝守滯佛命令請書

慶應三年十一月十五日

御請

御書取拜見仕候然者私儀佛國御用濟次第歸 都可仕旨兼被仰渡御座候
得共猶追御達御座候迄は其儘滯留向山隼人正申合諸御用向取扱可申旨
御書取之趣奉承知候以上

十一月十五日

栗本安藝守花押

一五 在佛向山隼人正書翰

山口駿河守等宛 慶應三年十一月廿六日

別楮拜陳小生此程英國事務執政の面會之上御國內之事情并大君思召等之
處兼被仰合候趣を以委曲談判を遂げ安藝持越候國體記琉球略記共英文

に爲譯相渡し且パークス之主張致し居候ハイテス論をも一應説破致候處
即答及兼候に付何れにも取調可申旨挨拶有之尤シーボルト通辯に召連候
故跡に被彼方内情被相探候處パークスが本國政府に申越し有之候主意は
マチステール之語は各國共無此上尊稱に相用即ち天子を皇帝陛下と稱し候
も同し事に有之御用被遣候御書翰面等に 大君殿下と認め有之候上は
ヒス・ハイテス之稱相當にてマチステールは天子に無之候は難相用趣を辭
柄に致し居候哉に相聞全く陛下殿下之字を以マチステール、ハイテスに引當
論を立居候事に相違無之旁以右等にからまり候は事六ヶ敷相成候に付
此方には條約面を押へ追ふ條約改正再議迄は無論にマチステールに爲据
置候見込に付其邊を以論し置候間左様御心得談判筆記壹冊御回し申上置
候に付御一覽之上壹岐殿圖書殿にも可然被仰上置候様仕度此段小生歸朝
之上委細可申上候得共彼方事務執政よりパークス方へ申遣し同人が何等
議論可申上哉も難計候に付先不取敢大略申上置候也草々頓首

十一月廿六日

駿河守様

但馬守様

甲斐守様

二白但州君には最早御地御出立後之程も難測に付本文之趣御心得之爲
め一書相添談判筆記書共巴里於る藝州へ相托し置候此段も御心得迄に
申上候已上

隼人正拜

一六 向山隼人正於倫敦英國外務大臣と談判筆記

慶應三年十一月十五日

丁卯十一月十五日洋曆千八百六十七年十二月十日英國倫敦におゐて

外國事務執政ロード・スタンレン宅に向山隼人正支配組頭三田伊衛
門通辯人アレキサンドル・シーボルト相越し英參政官へモン列席談
判筆記

一應挨拶畢る

隼人正

一此度拙者貴國に相越候に付るは執政官の御面會之上得と御咄可申置旨
政府に被命候義有之候間御談申度候右は當大君御繼統以來外國との御
交誼一際厚く被遊候思召に於既當春於坂城各國公使謁見之典有之別段
之御懇話も被爲在且兵庫も彌開港江戸居留地も御開き相成猶追ふは西
國之方にも港をも御開き可被成程之思召も有之候

ロード・スタンレン

當大君格別御懇親之思召は兼々承知罷在候得共猶今日之御談話に
於彌兩國之御交誼厚く貿易も益隆盛可相成義と大幸之至に有之且
日本之御爲にも可然義と存候

然處諸藩之内政府開國之議を妨げ私に一己之利を貪らんか爲陽に鎖港
之論を主張し種々虛妄之流言をなし責を政府に歸し陰に外國と私信を

結はんと擬する者も有之哉に相聞候右等之類外國政府にては信用も被致ましきなれとも萬一疑惑等有之候様に而は大に大君之思召にも悖り自然懇親之交際上において不都合をも生し可申事に有之一體日本國體之義外國とは大に異り居候間外國人おゐては容易に會得被致間敷に付古來沿革之事迹大略を記し候一書英文に譯し持參御心得之ため差出候間御熟讀有之度候且又琉球島之義も我祖宗已來附庸之國に候處既本年佛郎西博覽會之節も一時奸謀之者有之獨立國なと之の說を唱へ候に付速に辯解いたし事濟候へ共是又爲念舊記等書抜并去戌年中横濱在留貴國公使ニールより問合之節相答候書付共今度英文に譯し御目にかかけ候間いづれも得と御覽有之度候

大名之義は御國內之義に付善惡共關係無之候得共英國においては
大君と條約取結ひ御親睦致候義に付大名の荷擔致候儀等は決而無
之候間其邊は御懸念無之様致度候

一日本之義に付御書記之もの御見せ被下候段は難有存候得と拜見可
仕候

一琉球之義も得と熟覽取調可申候
扱又今一事御談話および度義は當大君思召等之義は前段申述候通り
に有之且今度我公子御尋問に付於貴國萬端御懇切丁寧之御取扱に而
貴國御本意之程も相見候事に有之然處當春坂城おゐて各國公使謁見
の節外公使はいづれもマチステール之敬稱を相用ひ貴國公使のみヒス・ハ
イテスと被稱候一體條約面にもマチステールと有之是迄各國共右條約面
を本として異論無之處貴國公使に限り是迄と變りヒス・ハイテスと改め
られ候は何等之行違に候哉貴政府においては是迄も我政府之爲に懇親を
表し種々盡力も有之殊當大君前件之思召を以此上共益親睦を被盡候時
に當り右敬稱等之邊に於て御異論有之義は萬々無之事に而恐らくは公
使一時之取計にも可有之哉と被存候尤其節一應評議も有之候得共素々

交際を厚く被遊候思召に各公使一同拜謁も被仰付候義之處右等之邊に於彼是議論を生し英公使而已謁見不被仰付候は御不本意之義に付先つ枉る其儘に爲御濟相成候義に於素より貴政府之御本意右様之譯とは不被存候其證は今度民部大輔殿御取扱振等格別御懇親に於禮節上において少しも無所闕満足被致候様御仕向け相成候にても判然相分り申候左すればマチステール之敬稱は依然條約面之通り各國同様被相用候事にてヒス・ハイテスは全公使一時之取計を出來候事に相違有之間敷と被存候間以來共やはりマチステール之敬稱を被用候様横濱在留貴國公使に御達し有之度候

右パークス申上候は英語に於相違致候哉日本語に於相違いたし候哉

英語に有之候

一體御國にて敬稱之次第は如何御唱御坐候哉御門には何大君には

何と申す御國之敬稱承知いたし度候

本邦に於は禁裡様公方様と奉稱候さまの語敬稱に相當り別に判然たる次第は無之候

失敬之義等申上候所存は決る無之いつれにも御相當之敬稱相用候心得に御坐候尤マチステールと申は英國に於は第一之敬稱に有之候諸事條約面を準據と致候義に付條約に相違致候義有之候は自然他事にも差響き不都合に候間いつれにも條約面に有之候通りにいたし度候委細承知致候得共御即答は難出來候

一於大坂公使謁見之節は御懇親御丁寧之御接待之旨委細パークス方申越於女王も大慶致候

右御禮御歸國之上宜敷被仰上被下度候

一パークス氏は全權委任之者に於同人申上候義は則政府申上候義に付御信用被下候様致度候

右畢不退席

〔向山對話書二月朔到來〕

一七 在佛向山隼人正書翰〔山口駿河守等宛〕慶應三年十一月廿七日

山口駿河守様
塚原但馬守様
朝比奈甲斐守様
御直展緊用
向山隼人正

丁卯十一月廿七日於法國巴里

手紙

一書拜啓其後心外御疎遠罷過候甚寒之節益御清勝被成御起居奉并喜候然

者當夏於阪城各國公使拜謁之砌英公使ハイテス論を主張致居候折柄民部大輔殿各國御巡訪被成候ても萬一彼方取扱振等之上に於て御不都合之儀有之候不は不容易事に付各國御巡訪は先御見合小生儀英佛政府を始各國の談判筋相勤候様可仕旨に不委細安藝に被仰合候趣も有之候間其通り取計可申筈之處民部大輔殿各國御尋問之儀は御出立前御親命之趣も有之且巴里御著以來各國帝王太子等の御面晤之節御直約をも被成置候儀に不既に瑞西國へ御出立後安藝マルセルに到着直に瑞西御旅行先へ罷越し候程之儀故各國にも日限等夫々打合濟之儀に付中止難相成場合に有之殊に各國取扱振等之上於て聊御懸念筋も有之間敷と見据候間一同評議之上各國御巡歴と相決し阿蘭伯耳義以太利等何れも無御滯御尋問被爲濟候段は其都度々々申上置候通りに有之其後小生被仰渡候御用向は安藝相談之上夫々處置仕佛國事務執政にも屢面談仕都不談判通承諾かの國體記琉球略記等も和春に托し佛文に爲譯相渡し置申候此度民部大輔殿英國御尋問之

儀はシーボルト格別周旋致し此方御尋問之意を承け女王より御招待と申事に相成御送迎にも別段彼方々蒸氣船差出陸軍セテラール罷出祝砲二十一發奏樂提銃等之禮を備女帝謁見之節も外國事務大臣御出迎王車に別宮へ被爲入奥の間於る謁有見之御逗留中陸軍士官詰切御旅館向共都る彼方政府之賄に於鄭重を盡し日々諸所御遊覽造船局製鐵所三兵調練等御覽に入殊之外御懇親に有之右之通餘國は猶更英國にても帝王同様十分之取扱に於聊心障り之廉も無之萬々御都合好相濟申候最早當年は餘日も無之候に付魯西亞米利幹等は御留學中追々御尋問之積是より民部大輔殿には全く御留學之御身と被爲成候に付小生儀は博覽會御用濟復命として歸府仕候心得に御坐候一體英佛御用談相濟外國々へも罷越し談判仕候心得に御坐候處兼る申上置候通り御用意金御不足相成此上小生各國巡歴致し候るは莫大之御入費相懸り右御繰合等小生微力には何分及び兼殊に前文申上候通り各國御取扱振等之上於て少しも異論無之都る御十分之御都合故

安藝とも相談之上來月之佛國郵船に於當國御用濟引拂歸朝仕候心得に御坐候此段御心得迄に申上置候此程御三名之御内狀巴里へ到著安藝披封之上英國逗留中到手拜見仕候英公使之暴行原市之枉死只々嘆息之外無之候無程歸府之上拜晤萬悉時下千萬御自玉奉祈候頓首

丁卯十一月廿七日

隼人正拜

三 兄坐下

〔向山書狀二月朔日到來〕

一八 在佛保科俊太郎書翰〔川勝近江守宛〕慶應三年十一月廿九日
當春大日本國出立已來佛國巴里府到著日に月に夢裡に相越候様相覺始には民部大輔殿御居所不相定後には三四ヶ月御道中前々之動搖内外大小之件々萬事相定不申其先博覽會等打混し今日と送り明日と消し候事残念至極何如に不肖に候共萬千里外之海濤を涉し篤き御世話有之候我御國恩

を忘れ申間敷と存し候一心をは歸朝迄相達可申候過月御教書之趣をも考候る乍恐久來御貴君御引立之御仁恩に奉報度御承知之通今の日本國は古之日本に無之上下大小皆開新之砌一同深く心得乍不及祖先之舊澤を可奉報期界失忘仕間敷奉存居候御國表には定し貴君御多忙奉推察乍去萬事相進御都合宜敷候様最一に奉祈願候

隼人正殿事近々歸府被致其節萬縷可申上先御不音拜謝旁勿々拜具

十一月廿九日

二白折角時氣御厭御忠勤奉願候

過期御手紙文次郎云々決して風聞之甚に中々右體之事有之候義夢にも無之御案事有之間敷候

川 近江守様閣下

保科俊太郎

○同上別通

甚寒之節益御清穆奉恭賀候當地にも 民部大輔殿御義御機嫌克難有并一

行之者無事消光仕乍憚御放念可被下候何れ申上候て宜哉久々御無音申上恐縮之至民部大輔殿各國御巡行之節度々御供に寸暇無之且御巡行中は之と申大なる御用向も無之候得共朝と云ひ夕と云ひ不絶種々之事出來多忙且御巡行之御模様度々御用狀中にも御承知可有之各國帝王に御懇情之御旨意公子にも御不都合無之各國丁寧に御取扱申上候事一同安心仕恐悦之至奉存候意大利國御巡行之間栗本始八名之生徒當地到著於私大に相悦且皆々少年に春秋にも富居御國之爲可相成と奉存候御承知之外に候得共當地民部大輔殿御假館にも朝夕一同勉強仕居御傳係コロテも御爲筋存込大々小迄心附候事に大いに安心仕候教師も眞に温順之人物學問も有之候様見請け申候公子も日々御勉強被遊候私事御國出立前被仰付候趣には當地に生徒著にも相成候得は無論流學生徒に可相成筋之處當時公子御附添之内少々にも御對話通辨仕人無之當時文次郎并小生相離候は御差支之趣隼人正殿御話有之何如にも今時之様子には少々之間

御假館方の可居申候

承り候得は御國佛陸軍教師等江戸に罷越傳習盛大に相成候由雀躍之至右に付生徒中陸軍局に有之候人は此度も佛行被仰付候趣當人共は殘念之事と奉存候

一九 在佛栗本安藝守書翰川勝近江守等宛 慶應三年十一月晦日

山口駿河守様
朝比奈甲斐守様
栗本安藝守
川勝近江様守

十一月晦
於巴里

前略

民部公子英國へ御歸巴里後益御壯健直に佛學に御取懸被遊至極御勉強也全權も博覽會御用済に西_{即我十二月廿四日}洋一月十九日佛國郵船に發佛歸朝と治定致申候

山保傳斷髮洋服立志愈堅但コロナルと戰爭は於今依然之様子來春宇魯御巡廻は御金支に御見合相成何寄大慶

御旅館御雜費も御減省相成候様子は亦不得不喜

御履御附衆之内四人病氣歸朝全權同船なり其實情は公子御留學中洋服御脱刀御治定に付烈公御遺志とも相違致し何分御附致兼候に付御暇願出候趣也老拙邪推には更に今一層之實情有之候事に右之内服部潤次郎と申者公子

漢學御師範之者之由人物も宜敷且佛學出精に洋文も逐々昇達既に自分日記等も佛文に巨細認置候程に出來且洋字も美事に書候由山高氏之囀右に付公子も殊に御愛惜被遊山高氏を以懇々御苦留有之候得共決心不回殘念之事に存候

殘留三人は順良物 公子御爲め被爲成候義は何様之義にも唯命是順可
 申迎即刻脱刀御供等仕居申候去迎前四人は仲間割れ之氣色もなし可恠
 此方傳習生は英國傳習生と違皆初心未熟にハ杯蜜柑杯芋同様小粒に候得
 共其替り能取締居更に懸念之義無之候且御手當等もフロリ預け置必用
 丈少々宛受取遣居候間此分には必貨殖致し銘々歸朝後養
 子に參る位之仕賄は出來可申可羨也
 和春も先汚之恥辱を雪候心得にて此度は餘程勉強教導致申候横濱之節と
 は大相違之様に存候是等は最早貞次郎申上候事と存候和春内心には是
 迄佛國第一之日本學者存候處豈料拒絶被致甚面目失居候處生徒參著以來
 被用候様相成大悦喜にハ師匠之方持出にハ劇場惣奢り等致し専ら生徒
 之機嫌不取失様奔走致居候此段御序に魯節ハ御話被下度願候
 電信機之義魯岡士ハ申上歐州ハ皇州ハ連絡聲息相成候様相成候得は無此
 上美事附ハ凡何程位之御入用に可相成哉クレーハ相話候所別紙之通

入用取調概略申聞候御參考之爲に差出御一覽可被下候老拙存込には蒸氣
 車電信機皆治國第一之要具にハ今日に在りハ是非不可不具乍去緩急先
 後之次第有之當時之處にハ京坂江戸之間ハ兩様御備相成候事先第一に
 ハ御坐候間少しも御有體出來候得は御國內ハ相始候方極御都合にも相成
 且御入用仕埋方も出來可申と奉存候不知貴意如何支配向^{坂戸}元々在留之
 心得にハ參り候事故冬服用意甚手薄然る處洋服壹襲に付先日本金卅圓相
 掛り候に付極々困却致居候間老拙手許ハ兩人ハ千フランク遣し置寒防丈
 は出來候得共來三月後迄も逗留相成候様に候得は惘然に候間銘々御手當
 金御受取御差立被下候様致度奉存候
 每便糺々老婆絮談に近く汚尊聽恐入候呵々

十一月卅日

花 押^{栗本安}

駿州

甲州 三盟兄

川勝家文書

御同僚諸君の宜敷奉冀候已上

二〇 在英川路太郎中村敬輔願書

慶應三年十一月

英國留學生世話人御断り被下候様
奉願候書付

川路太郎
中村敬輔

私共儀英國留學生取締被 仰付候上は乍不及人材出來候様骨折候義に御
坐候然る處一同何れも一己之勉強は仕候得共更に進歩相見へ不申候右様
學業涉取り不申と申は畢竟英國政府の申付候世話人ロライドと申す者の
見込不宜故之義に御座候右世話人は御賄并に教授の入用共一切引受且生

徒一同を己れの宅に入れ置世話いたし候故成る丈生徒の物入をかけ不申
様にと吝嗇にいたし自己の腹を肥し候義に御座候右故只一人の教師を雇
ひ置候も十四人を教へさせ候事に御座候元來私共見込には十四人を一ま
とめにいたし置候もはあまねく英人と言葉を交へ候事も自由に出來不申
八千里外の英國まで數萬金の御物入を奉懸候も遙に参り候甲斐は無御坐
候事ゆへ一人つゝ相離し念頃に教へ候師匠を相撰ひ寄宿致させ差はまり
稽古爲仕候積りに御座候間左様可然と存し當地著候後直にロライドの談
し候處ロライド承知不仕候右は同人十四人を一まとめにいたし不申候も
は一己に利潤薄く候故に御坐候其後いよゝ嚴敷談し銘々を別宅爲仕候
得共矢張御賄并に教授入用は同人引受居り候事故稽古の時は十四人を一
所にいたし教へ候事にて更に行届不申候此程又同人最前の如く生徒を己
の宅の呼戻申度段申出候私共不承知を申し候も彼一向に聞入れ不申候
子細はロライド留學生を一所に住居爲致且御賄教授の入用等壹人貳百五

拾ボント宛に仕切り引受可申段バアクス御老中の差出候御老中御承知に相成り候元極之書付彼之手に御坐候右を證據といたし居候事故私共にて手の附け様も無御坐且私に世話人の手を離れ候事も出来不申甚以不本意の至りに御坐候へ共再ひ彼之宅に生徒をひとまとめに爲住居候様に成行き可申と歎息仕り居り候事に御坐候右等之義に付今般改奉願候義は先般バアクス御老中の差出御定に相成候書付を御改めに相成御老中の英政府の留學生世話人之義は御断り被下候様仕度奉存候段々當地之様子を承知仕候處世話人と申ものは決し無用之者に御坐候且世話人不宜候へは何程か不都合を生し候事に御坐候右故御國辨理公使塚原但馬守近々當地著に可相成且私共追々當地に事馴れ候事故世話人は最早英政府にて被附置候には及不申旨を以て世話人御頼み之義を御断り返しに相成候様仕度奉存候左候得は私共御賄教授之入用壹人貳百五拾ボント宛を私宅に引受取扱兼見込通り生徒銘々に可然人物を教師に致し書物器

械等も銘々に引足り候様に仕り十分に差はまり修行出来候様爲仕可申候只今の姿にては私共取締之名目御坐候のみにて御老中の御頼にて英國政府にて申付候世話人附居候事故生徒之義に付口出しも出来不申職掌に對し奉恐入候義に御坐候萬一世話人御断り被下候義御許容に相成り不申候は、私共此上は取締御免被仰付且當地之姿に於ては自身修行も出来不申徒らに御賄御手當を頂戴仕候義恐入候間速かに歸朝被仰付被下候様奉願候一體留學生を外國の御遣はしに相成り候義は御國にて語學も出来候且且獨立も出来候程之年輩之ものを御撰ひ遊學之御賄御手當被下候別段政府の御頼み等之義は一切無之候御遣はしに相成り候へは世話人等之妨も無御坐候自身見込通り夫々之學科に就き實地之修行十分に出來候義に御坐候右之義向山隼人正此程當地に被參候に付相談仕候處同人も至極同意に付同人も委曲可申上候世話人等に付種々之不都合は筆紙に難申盡同人の御聞取奉願候何卒右御英断被下英公使へ篇と御懸合被下

世話人御断りに相成り私共は早々御下知被下候様偏に奉願候以上

卯十一月

川路 太郎
中村 敬輔

二一 在佛栗本安藝守書翰山口駿河守等宛 慶應三年十二月十五日

前略向山と申山高と申別段所悪あるに非ず唯外國御交際上不馴之邊を頑固に私見を押通候積りか今日之事情に至り候事故詰り當國に居不申候得は可咎所は無御坐候其不馴之者被差遣候は御上にも少々御目鏡違に御坐候間兩人共歸朝之上は身分之義は幾重にも御保護被成下度三君の伏奉冀候其代り當地是迄少々不都合は兼々申上候通拙任當致し必補足御安心之場合には是非共爲到可申候間兩人之過擧は終に消散可申候其證據は拙到著之初フロリ義コンシユル職御辭退申上度クレーイは御國御用御断申上度和春は郷里の引籠申度杯銘々不平申居候得共元々本心之語に無之

故二三語慰藉に忽氷解仕候唯昨今承込候には后妃アンペラトリス公
子之御幼弱を深愛申上御眼疾之節杯朝暮御見舞使者等差出親切に御尋申
上候處御全快後御禮謝にも御出不相成直に各國の御巡廻相成此方御疎
遠に被遊候段后妃少々含居候様子拙耳に入申候是等眞實に候得は些困却
仕候得共是以唯今之内なれば挽回致方其術無に非ず候得は旁以當表之義
は御受合申上候に付兩人之義は何分寛大之御沙汰所奉願に御坐候○扱又
拙一身之事逐る御沙汰は何様に被仰出候哉難計候得共定る在留と歎何と
歎出可申哉に奉存候得共是は甚難澁千萬也父子遠征家内老婦穉女而已杯
と申私之不都合は暫扱置元來御用濟直に歸朝之命を奉し其心得に罷越
候處國家之御大事苟免を計候に不忍断然身を以て任當可仕決著仕候も元
々一時之事故事平之上は速に歸朝出來を樂み期居候義に付若萬一永く御
据付等之御内意に候は是非極力御救助奉願候尤向山氏後任之人被命候
は其者來著御用向引繼迄は辛抱可仕兼る覺悟も仕居其段先達圖書公迄

内々建白も申上候通之義に御坐候間明年六七月乃至八九月頃迄には是非
 當地出帆相成候様三君被仰合御取計可被下候拙義前行兩人を排斥し當表
 全權に成度内存杯と評批之者も可有之哉存候得共此理萬々無之候人情誰
 か家居安逸を不好況や言語不通酒食異味之國親朋故友可談可語者一切無
 之地に參り全權に成候迎何之娛樂も無之候此邊御諒察被下無御二念事平
 之日は速に歸朝出來候様御周旋奉冀候○御入用是迄存外相掛り前行人と同居也
 候得共本月の痛く減省一ヶ月二千フランク洋銀四百弗に御賄可申間左候得
 は來年中は持越丈に御相支可申品に寄歸航入用丈も不足に相成可申歟存
 候唯私金はつまらない玩物等うか／＼買込逐々缺乏に至り申候來三月後
 迄も滞在に相成候様子に御坐候は、四月分御見計凡壹ケ年程も御受取
 御遣し被下候様致度奉存候尤支配向坂戸小八郎熊谷次郎左衛門同様に御坐候○熊谷之
 偶然なるは外生徒は十一人共日耀入用壹ケ年二百弗頂戴仕候得共同人の
 は不被下御用向は取扱候得共其代り被下金は無之と申は更に不公平之事

○三君子は
 山口駿河守
 朝比奈甲斐守
 川勝近江守
 守の三人か

に御座候間江州の小栗の一應御掛合被下候様仕度存候一ヶ月卅兩に御扱
 放し言語も出來不申生徒の御手當薄と申義は必無之道理に御坐候尤當人
 は夢中にも更に不平之顔色も無之候得共默然に御拙に於る羞候義に付
 此段申上候煩瀆縷々御海恕奉要候已上

十二月望

花 押 栗本安

三 君子 梧下

御手當向受取方仕出しは石川岩司心得居可申候間其御地に御取計吳
 々奉願候以上
 知行所拾ケ年物成平均高調書此便留守宅に申遣候間定三君又は石野
 筑州の家來伺に參上可仕間御家來衆の可然御差圖被下度候様奉希候已
 上

二二 在佛栗本安藝守書翰川勝近江守等宛 慶應三年十二月十九日

向全權及博覽會掛一行歸便に託し呈寸楮候時下朔風栗冽候處各位倍御清暢何慶如之隨る驚輩鏡頑幸に御放念可被成下候此地別段申上候程之事件も無之三伊は兼る申上候通一と先歸朝爲致候間左様御承知被下度尤心障等は更に無御坐而已ならず於此方却る少々不自由を増候位之事に有之候得共無ければ無い成に濟行候間相戻し候譯に御坐候同人事駿州御宅の被爲招呼可相成は一酌賜り然る後兼る之事情篤と御聞取被下度奉存候程々之性弟と同様不醉則慎々則不語

山高コロ子ル著膳賓主を争ひ積日不能平昨日愈勃發然る處

公子一語判定互に帖然和平佛人

公子之賢を賞讚嘖々不止劣弟雖不預其席佛人傳説に於る其實を得たり此夜

向氏來り告別に付本文承候處佛人傳傳に未た和平に不到由眞に困物なり念追記

公子之御聰明今更不待御賞讚此上は賢傳を得る其才を十分擴充申上度事に御坐候彌左様にも相成候得は御歸朝迄には無比之英雄に可被爲成奉存

候也噫

先は右等而已草々不備

十二月十九日

駿州様

甲州様

近州様

尙々平參政其他の宜敷奉冀候已上

裁書中一首浮んたり

夢あるら聞も板屋に玉砾られ唯そらくくを思ふとかわよ

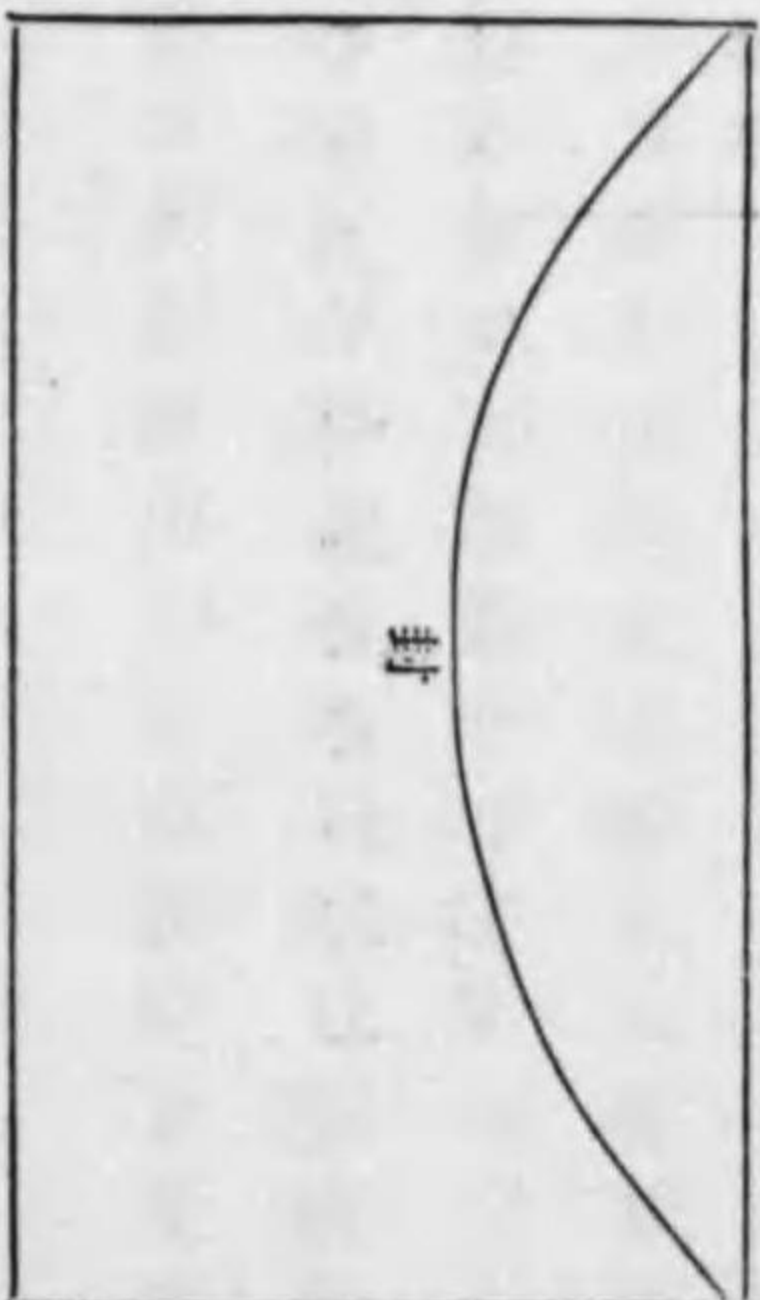
花

押栗本安
藝守

山口駿河守様
朝比奈甲斐守様
栗本安藝守
川勝近江守様

二三 在佛栗本貞次郎書翰川勝近江守宛 慶應三年十二月廿一日

日本	佛國
川勝近江守様	栗本貞次郎
無異緊用御親覽	



寫真夫々御配當

以幸便一書拜啓仕候甚寒之節に御坐候處愈御清適奉賀候次に私初生徒一同無異罷在候間乍憚御放懷奉願候將生徒一同勉勵委細は此度歸朝之者より御尋問奉願候○縫殿殿初其外御詔品任幸便差上候間可然御配當奉願候○御同人様御衣服之儀は種々承合候處官服之外は總一一般に別段陸軍宰相常服と申物は無之候尤右は先便申上候通に御座候間御序之節右之段

可然奉願候○ピストール并小銃は當所尤有名之店之買入候品にピストールは此店に於は尻折之方は一切出不申右には種々損益之議論有之候得共冗長故不申上小銃之方は同店に御坐候内尤堅牢且實用第一之方相撰差出候間左様御承知可被成候尤虚飾は右品より勝候品所々に於見當候得共都々ガラオンチー合請には無之右故同品々差上可申候○皮箱之儀は上品には無之萬一御氣に入不申候は、後便別品買入差上可申に付左様御承知可被下候○小銃箱之内空所三ヶ所程有之右は獵に用候品等入候所に別段入用品入候場所に無之是亦御同人の御通奉願候○幸便に付龜品貴所様迄差上度存候得共差當無之就は幸ひ化粧道具御詔に付右品龜末なから獻呈仕候間御笑留奉願候森川氏の箱入小寒暖計壹右も皮箱中に入置候間同人の御届奉願候○小埜金藏衣服之儀何分間に合不申何れ幸便之節差送可申候○デロールにて御差遣之爲替儘に落掌就は出立前御渡相成候證書返上仕候○當地學校之儀は來る廿六廿七日兩日之内引移候積諸入費等



之儀は何分今便にて間に合不申候間後便可申上候先は諸御入費不嵩様精々苦心仕候得共事情無據少々は余計相成候哉も難計候○小生寫真任幸便獻呈尤甚不出來左様御承知可被下候歐魯巴は著後追々好男子に相成且年齢も外國人には少年に相見大略十八九歳之勘定御笑覽可被下候○生徒一同之寫眞督責仕候得共何分今便は間に合不申後便に認申候○公子御模様は隼人殿初其他歸朝之者より御承知と存別段不申上候得共御心得迄只申上置候儀○此度歸朝之諸君は何れも一種之コンパニに佛よりは英に荷擔之者多右故萬事不都合之件度々出來右故議論も往々相反し候儀有之候間左様御承知可被下候○先般より公子初愈御留學と申事に相成先一規則相立至極宜且公子之御評判は何れにも至極宜敷是尤可賀事に御坐候○諸不都合之件は此度歸朝之公子御附之者能承知罷在候間御序も御坐候は、御就問可被遊候尤右とても例之バルバル故中には誤解致候論も有之間右は貴下之公論を以御聞取可被下候○生徒學校規則はチト過嚴と存候

得共別段致方無之何れ後便翻譯相添差上可申候後來御遣相成候生徒未出帆不仕候は、右之段能々御口通奉願候萬一御規則を不知者は親疎之辨なく追歸可申心得に御坐候右能々御談可被下候○縫殿殿諸員買物は保科山内兩人御手當金之内返納分有之に付右を以使用仕候間左様御承知可被下候諸勘定別紙に御覽奉願候○英佛亞諸邦に流布致候新聞には大君御辭職之件書載有之右に萬事淹滯已に相成候可送教師も爲之因循仕候次第實に困却仕候○只今クレー來訪佛新聞是は佛國尤公然たる新中にも同様右之趣其他「ポアレドガルト」より之轉信新聞矢張大略同様之由申聞候○右は任幸便右件申上候余期後便候不盡

十二月廿一日

貞次郎花押

江州公貴下

尙以御覽後は御投火可被下候御令圍様御初皆々様は宜舖其外知己諸君

にも同斷□□

川勝家文書

七十七

○別通

貳箱之内

大之方

緋天鷲毛西洋鞍

壹脊

諸具全備

右は小埜金藏渡品

西洋□邊鞍

貳脊

同斷

右は貴所御詔品候

鞭

三本

内上壹本は貴所様御詔品候外貳本は序故御回申候品

同斷

小之方

皮箱

貳ッ

右は松平縫殿頭殿御詔品

右皮箱之内

ビストール

壹挺

諸具備箱入

化粧道具

壹ッ

右は小生を貴公様に獻呈之品

箱入寒暖計

壹

右は小生を莊次郎に遣候品

望遠鏡

壹

右は同人詔品

鍵

四

右はヒストール皮箱并小銃之分

川勝家文書

川勝家文書

外

縫殿殿御詔品之内

小銃箱

諸具全備

皮箱中に入置候分

書籍類

三兵調練書

大砲製造書

但圖添

大砲書

小埜詔品之内

ヲルレンドルフ

佛字書

壹

六冊

五冊

壹冊

壹冊

壹冊

文典

伊東貫造分

佛英字書

佛曆史

窮理書

醫書

諸戸十郎分

壹冊

貳冊

貳冊

壹冊

壹冊

外神原

菅沼

伊東

小出

大鳥

緒方

川勝家文書

銘々書狀壹通つゝ

此書狀中に差込候書狀

合三通

書籍并届物其外共小札附置候間右に御届方可被下候鍵も同斷札附置候

二四 在佛栗本安藝守上申書

慶應三年

民部大輔殿御留學并外國奉行在留之義に付見込申上候

栗本安藝守

一當國在留外國奉行

右は民部大輔殿當表御留學中は清水附家老兼帶不被仰附候半は勢兩岐に相分れ居合方に差響申候間諸般御用向御不都合之義出來可申當時既に

粗其朕兆相見申候

一山高石見守

右人物至正直學才も有之行々一廉之御用相成可申候得共佛帝のころ子ル官壹人御附被下候上は御廢官相成候も 公子御差支無之且同人義未外國御交際向不馴にも有之兎角佛國人相厭候様子に御坐候間此分に候は折合方懸念にも被存候に付留學生取締被仰付 公子御附御免相成候方可然候

一 木村宗三

一 高松凌雲

右兩人 公子御附御免留學被仰付山高石見守保科俊太郎差圖可受旨被仰渡方可然候

一 澁澤篤太夫

右は外國奉行支配調役被仰付是迄之通御用取扱候方彼是不差跨御用辨相

成可申候

一 生徒取締 保科俊太郎

一 山内文次郎

右は 公子御附添御免被仰付俊太郎は留學生取締文次郎は留學生被仰付

候方可然候

横濱傳習生

一 小出 涌之助

但公子と年齢御同様にて怜悯之者生徒中御撰

右は 公子々毎々御同年位之學問御相手出來候様歸朝之上は申上吳候様

御頼御坐候御尤至極之被仰聞と奉存候間幸此度御出來相成候方御都合宜

御坐候

一 公子御供御履之者

右は過日山高石見守々三名歸朝之義申立候定之申立通被仰付候事と奉存

候得共猶兩人歸朝被 仰付残り人數全兩人に相成候方可然と奉存候間其

通被仰付度奉存候

一 御入用之義

公子御留學并外國奉行在留共可成丈省略方勘辨致し壹ヶ年大凡洋銀五六萬弗を以取賄候様取調可申聞旨御沙汰御坐候様致度奉存候事

但右様御沙汰御坐候上はフロリヘラルト、クローレイ、コロネル共談合を遂

双方納得之上に之増減相立候方は迄之如御不都合有之間敷と奉存候以上

二五 幕府達書「川勝近江守宛」慶應三年十二月十八日

十二月十八日

川勝近江守宛

覺

栗本安藝守

在留中清水附御用向も取扱候様可被致候

山高石見守

留學生徒取締被 仰付候栗本貞次郎保科俊太郎可申談候依之民部大輔殿御附添被成 御免候

木村宗三

高松凌雲

留學被 仰付諸事山高石見守栗本貞次郎保科俊太郎得差圖可相勤候依之民部大輔殿御附添被成 御免候

澁澤篤太夫

外國奉行支配調役被 仰付勤候内並之通御足高被下御役扶持も被下之民部大輔殿御用も是迄之通取扱候様可被致候

保科俊太郎

山内文次郎

民部大輔殿御附添被成 御免候俊太郎は留學生取締文次郎は留學生最前申達候通り可被心得候

栗本安藝守

覺

民部大輔殿御供御雇之内三人歸朝之儀先達申渡候處思召も有之候間此上猶兩人歸朝申渡向後御附之御雇人數兩人に相勤候様可被申渡候事

右同人

民部大輔殿御留學并役々在留に付るは御入用筋之儀も此節柄可成丈省略方勤辨致し壹々年凡洋銀五六萬弗程を以取賄候積相心得猶巨細取調可被申聞候事

横濱傳習生

小出涌之助

札下

右佛蘭西國の留學中民部大輔殿御附添も可相勤旨可被申渡候事

右之通票本安藝守の相達候間可被得其意候事

留學生は既に出帆後に候間御地に可然御人撰御申渡可被成候

二六 在英川路太郎中村敬輔連名書翰

「小栗上野介等宛」明治元年二月十七日

一 翰拜呈仕候追々暖和之氣候に相成候處各様御壯勇被成御座珍重之御義奉存候陳は先便度々申上候に付御承知にも相成り居り候通り世話人ロイド書生一同の世話賄方いたし居り候處諸事省略にいたし自己の腹も肥し一同生徒自分の見込通り修行も出來不申右に付御仕法替相願候書付先便さし出し候義に御座候願之通り被仰付ロイド義御斷り被下是迄ロイドの渡し候分を書生銘々に被下候得は御入用格外減し候上にて書生も見込通

りの修行も出來申し候義に御座候扱御仕法替いよ願之通り被仰付候へは取締と申ものは無用の者に御座候其故は外生徒いつれも手堅き人物に有之候上銘々自分賄に相成候得は夫れくの學科に長する師匠を擇ひ相當の月俸にて入塾修行も出來候故不取締に相成候義は萬々無之義に御座候左候得は私共別紙願書之通り歸朝療養被仰付候へは一同中四五人年輩の者の中に月番を相立萬事互に心付江戸を往復の御用取扱候様仕り候得は取締無御座候迎更に御差支の義も無之と奉存候取締役御廢しの方可然と奉存候一 昨年より風土の違ひより私兩人共胸痛差起り品々當地にて手當いたし候得共其しるし無之甚以當惑罷在候右に付是は歸朝の上療養仕度奉存候即別紙願書差出申候早速願之通り被仰付候様御取計之程偏に奉願候一 先般申上候通り御仕法替願之通り不被仰付ロイド御斷り之義萬一御六ヶ敷御座候は猶更以てロイド全權にて萬事を取扱候義に付ロイド即取締に御座候私共は實以無用之物に御座候右故御仕法替の有無にか

はらす歸朝療養の義願を通り偏に奉願候

一 昨年持越し御金之義は御賄料銘々貳百五拾ボントステルリンク生徒御手當毎月三拾兩つゝ日曜日等之雜費貳百ドルラルつゝ外に洋中之用意金貳千ドルラル御書籍之代金三千ドルラル合亦五千貳百六十四ボントに御座候然る處最初私共之見込候を格外一昨年以來之費用相嵩み申候右は英公使バークス御老中方に差上候元極書付に依て世話人方の御賄料壹ケ年三千五百ボント相渡候外に又右元極書付に因り衣類之代銘々四拾ボントつゝ相渡申候且又當住宅に引移候迄ホテルに罷在候諸入費并に航海中船賃之外ホテル滞在中之諸拂并に昨年中學業進歩之爲別宅仕候これは先頃申上候通夫々師匠之宅に入塾仕候是とてロオイド進十ボント之外に請取度旨申出且 依亦昨年中私共も右別宅入用合亦五百八十

九ボントは差遣し申候得共精々談判いたし右高之中食料丈は同人を追亦私共かたに返濟可仕趣之書附取置申候

臨時入用高左之通

一 旅中ホテル其外之入費先般勘定書申上置候通金高

九百四拾九ドルラル二十二セント

一 當時住所ロオイド宅に引移候迄ホテルに罷在候諸拂

三百二十八ボントステルリンク十四シルリンク三ペンス

チエトリンクロオースホテル仕拂

一六十四ボント十九シルリンク三ペンス

一 ウウーツ小ホテル之仕拂

百三十九ボント八シルリンク三ペンス

同断二度目拂

五十ボント十六シルリンク一ペンス

同断三度目拂

六十六ボント拾シルリンク二ペンス

内

一 衣服代金 五百六十ポント也
 一 小栗上野介殿を御申越之御書籍買上代金 貳千ドルラル
 合之英金一千五百五拾壹ポント

三 シルリンク九ベンス也

右之臨時入用金は洋中非常用意金貳千ドルに於仕拂可申處貳千ドルに於引足り不申に付銘々御手當等之中に於仕拂置申候義に付諸生一同にも被下候御手當丈けの金高相渡し候義も相成り不申元より私共兩人義は必至に儉約いたし居り候義に御座候其上昨年正月を金子御廻し之義申上置候處當正月にいたり漸く御廻し有之夫れも半ヶ年分にて何にも引足り不申残り金無之一同困窮仕居候尤右申上候 政府御入用金に相立候廉はバークスも申出し候哉とも存し候兎に角早速右臨時入用金并に當年残り半ヶ年分の御手當御賄等此手紙御地に到著以來早速御建白被下御下知に相成り直に其御地より御仕立被下候様奉願候右申上度如斯御座候以上

二月十七日

尙々ロイド多欲にて壹ヶ年に壹千ポンドは世話料にいたし申候由公然と私共に申居り候夫にても猶不足之顔色に御座候右故世話人御斷の義是非ともく奉願候以上

川路 太郎花押
 中村 敬輔花押

小栗上野介様
 塚原但馬守様
 山口駿河守様
 川勝近江守様

二七 在佛山高石見守外二名連署書翰

〔川勝近江守等宛〕 明治元年 二月廿二日

以書狀致啓上候春暖之時節御座候處彌御安康珍重奉存候然ハ小出涌之助

義民部大輔殿御附添も可相勤旨被 仰渡候に付は御附添中御手當山内
 文次郎同様に被成下候様致度且石見守義は
 御同人御附添御免被成留學生徒取締被 仰付候に付は向後拙者とも同
 様之御手當被成下候義と奉存候高松凌雲木村宗三義も御附添御免留學被
 仰付候間是亦御手當向其外留學生徒同様に被成下候義と奉存候得とも右
 何れも未御手當向之義被 仰渡無之候間可然被 仰建早々御下知相濟當
 二月分より之御手當御廻し方御取計被下候様奉願候以上

二月廿二日

保科俊太郎

栗本貞次郎

山高石見守

川勝近江守様

森川莊次郎様

二八 在佛栗本安藝守書翰山口駿河守等宛 明治元年二月廿三日

爾來御疎信甚背本意候奉謝此事各位倍御清健御勤仕被爲在何幸過之多賀
 々々當方

公子御機嫌麗敷御勤學老拙以下頑堅如鐵奉職罷在候間乍憚御休慮可被下
 候仰御吹聽申上候不奉存寄淹留中參政格被 仰付料外之榮典難有仕合に
 奉存候唯々老殘鳩拙加之曠放之性洪恩萬分之一も奉報候事不能と日々戰
 競罷在候扱又御國御近況如何哉米英之電信兼亦不可盡信とは存居候得共
 逐々御用狀之趣御様子柄髣髴致居候に就亦は猶更抱鬼胎信疑各半中深心
 配仕候其内には愈逆匪御殄滅と申好聞有御坐度と一同北斗を拜し遙念默
 禱之外無御坐候何も前文御吹聽旁觀縷汚清覽候勿々不罄

二月念三

安藝守

駿河守様

川勝家文書

九十五

甲斐守様
加賀守様
近江守様
河内守様
丹後守様
和泉守様
對馬守様
筑後守様
武三郎様

尙以時下折角御愛齋奉要候
隼人正殿伊衛門此節漸御著府と存候此回は不捧一書候間御面會之節宜
敷御致聲奉冀候已上

(封表)
御同役中様御見廻し

栗本安藝守

二九 在英川路太郎中村敬輔連名書翰

山口駿河
守等宛明治元年
二月廿三日

一簡拜呈仕候然は先便云々申上置候通私共兩人異地風土之相違より胸痛
差起甚難澁仕候に付歸朝之儀相願置申候定而御承了と奉存候右願書相認
先便差上候義と相心得候處全右願書取落し申候間今日托佛便願書拜呈仕
候何卒可然御處置可被成候先は右拜啓迄早々頓首

二月廿三日

中村敬輔花押
川路太郎花押

山口駿河守様
塚原但馬守様
川勝近江守様

川勝家文書

九十七

三〇 在英川路太郎中村敬輔連名願書

明治元年二月

病氣に付歸朝之義奉願候書付

川路太郎
中村敬輔

私共儀元來病身に御座候處去寅年以來英國に罷在萬里外風土相違仕候故
か昨秋の胸痛差起り種々手當仕候得共何分快方に不相成候に付御國に
療養仕度依之何卒早速歸朝之義奉願候以上

辰二月

川路太郎
中村敬輔

三一 同上

明治元年二月

病氣に付歸朝之義奉願候書付

川路太郎
中村敬輔

私共儀元來病身に御座候處去寅年以來英吉利に罷在萬里外風土相違仕候
故歟昨秋の胸痛強差起種々手當仕候得共何分快方に無御座候に付御國
に療養仕度奉存候依之何卒歸朝之義奉願候以上

辰二月

川路太郎
中村敬輔

三二 在英川路太郎・中村敬輔連名書翰〔小栗上野介等宛〕 明治元年三月三日

一簡拜呈仕候先以各位倍御清穆奉拜賀候扱先便も申上置候御金之義事實
差遣既に御手當金并に自分持越し金之内に差繼仕拂置候儀に御坐候間
何卒御賢察可然御處置奉願候且又御書籍代金御送之義も何卒早速御差送
奉願候

○私共病氣に付歸朝願之義先便も差上置申候得共尙今便今一應願書差上
置申候間是亦宜敷奉願候尤右願濟相成候節は一應英公使パークスに御
書翰を以兩人歸朝之段被仰遣候様奉願度候先は右奉申上度如此御坐候草
々頓首

三月三日

中村 敬輔
川路 太郎

小 上野介様

塚 但馬守様

山 駿河守様

川 近江守様

再啓當時殊之外御多端之處御坐候得共本文兩件は何卒御盡力奉仰候

三三 在英川路太郎・中村敬輔連名願書 明治元年三月

病氣に付歸朝之儀再應奉願候書附

川路 太郎
中村 敬輔

私共儀元來病身に御坐候處異地風土之相違仕候故歟昨秋之胸痛差起り品

品手當いたし候處其驗無御坐難儀仕候因る御國に於療養仕度歸朝之儀先達を奉願置候通に御坐候處此節尙逐々胸痛相募り實以難澁仕候間何卒早々歸朝之義願之通被仰付候様偏に奉願候以上

辰三月

川路 太郎
中村 敬輔

三四 在佛栗本安藝守書翰

平山圖書頭等宛 明治元年三月廿五日

前便以内狀申上候通當地公子御留學自餘生徒同斷將老拙一行長逗留に於は御入費不貲に付此節柄如何にも御無益に屬候に付少年生徒取纏め老拙一と先歸朝此回佛船に乗組出帆之心得に御坐候處跡々所置餘程旨く致不申候は其甲斐無之候に付夫是勘考之次第も有之クレイ始佛人相談も致し旁日數相掛川勝江州書中次便愛藏被遣候趣も申參り候に付一便見合

四月念七發船之心得に御坐候老拙退後之所置と申候も外に妙策も無之候得共佛帝を被附候コロチル義餘り高給には御坐候得共御入用續候丈は取賄置其内公子御事御國內御多端之折柄格別御省略に付尋常生徒同様之御心得に被爲成候旨外局は文通致候得は彼方々自然御附之義申斷候手續に御坐候尤此件之爲め御交際上聊に於も御不都合等生し候義は決る無御坐候左様に相成候得は諸般隨而相減し公子も生徒居宅セルシミジの御轉居爲致公子生徒御同様に於壹ケ年凡佛貨五萬フランク此ドルラ位に於御仕賄相立可申扱右金子も年々御國を仰候様に於は萬一御差支等之節困却を極め候間此方御有合品遠用之分沽却英國之分悉皆同斷當時フロリ此分四五萬フランク預け置候六萬フランク及博覽會殘品も政府商人分此分凡貳拾萬但内端積に於は少々之入金も可有之且和蘭商社を受取候月々爲替も可成丈減用致候は、年内には四十萬フランク餘之御有金に可相成此洋銀左候得はバンクに預け候もシマンドヘール券書を買入候も五分之利足には相當候間年々貳萬フランク

は此方涌出不足之分御補足相成候様致候は、御都合にも可相成且此方殘留之輩一同心丈夫に浮足に不相成且歸朝致候も御入用不相掛候間右取計方駈と取極置出立可仕と存候○御國事情新聞紙上にゐは種々心慮を被惱候得共詰り和戦之兩途に不出但拙考には和之御心に被爲和候得は其和必破遂に滅に至可申候間十分膽を張り戦之心に被爲決候得は若哉和に相成候も其和可保様被存候此後逐々之御狀に其邊相分り可申と一日千秋相待居候事に御坐候何も右邊申上度草々已上

三月廿五日

安藝守花押

圖書頭様

駿河守様

尙々コロチル一條は前文之通には申上候得共容易には決し不申候此段御用狀之御模様寄將又御金繰次第に付取計可申相成候義に候得は佛帝厚意に被附候者之義に付一日も引附置度事と相心得居申候クレーイ義は聊不承知之様被察

候得共御附置申候方 公子之御爲に御費用に難換場合も可有之歟存候間篇と思惟之上に無之は決著不仕候

生徒之義も少々議論替り少年之方は却る留置老大之方差當り御用にも相立候事故歸朝可爲致哉唯今勘考最中に御坐候已上

(封表) 平山圖書頭様

栗本安藝守

山口駿河守様御直展

三五 在英川路太郎中村敬輔連名書翰

傳習掛宛 明治元年三月廿五日

一簡拜啓仕候各位御清祥拜賀陳は先達の中奉願置候私共兩人病氣に付歸朝願之義何卒早速御取計願濟被仰付候様奉願度頃日來病氣も彌相募り必至難澁仕候間今一應願書相認今便拜上仕候尤此書面御落手之頃は既に歸朝願濟相成居可申義は必然と奉存候得共爲念今一書差出置申候
○先達中申上置候御金之義もいつれにいたせ早々御差送無之候は一同之飢渴にも有之義に御坐候間早々御取計奉願候是亦既に御差立相成居

申候義とは奉存候得共爲念今一應申上候私共兩人願之通歸朝被仰付候とも外生徒一同御差置に相成候義に御坐候得は素より御金無御坐候は一日を相送り申候義難相成義に御坐候依此節柄御金等之義申上候は甚恐入候得共留學生徒當地へ被御差置相成候上柄は實御物入もいたしかた無之義と奉存候乍併右等留學生御處置之義は先達の中々頻々申上置候ゆへ定御承知にも可有之何卒利害得失御勘考之上當時御金御差送方も何分御沙汰相成かたき義に御坐候は、寧ろ一同早速御呼戻歸朝之義被仰付候かた可然其他之手段は有之間敷奉存候段御金も御差送方延引に相成又は御呼戻しも無之どつちつかず中ぶらりんにあは實以一同難澁入牢者もいか計か困難其上自身銘々は免もあれ莫大之御損失申迄も無之奉恐入候義に御坐候間右等前文篤と御了承被下早速御處置いつれか御決定速に奉祈候先は右相願置候勿々頓首

三月廿五日

中村 敬 輔花押
川路 太郎花押

傳習掛諸兄侍史

尙以當地留學生徒一同歸朝被仰付候義御決定相成候得は右之段英公使パークスは是非とも被仰達被下候義に可有之若左も無之候は御不都合に相成可申奉存候右私共兩人歸朝之義も右同様パークスは御達し是非とも奉願候

三六 在佛川路太郎書翰「川勝近江守宛」 明治元年四月廿五日

一簡拜呈仕候先つ御清穆拜賀次に賤生輩無恙消光乍憚御放念奉乞候扱御國內之形勢實に驚愕至極之次第に至り只々泣涕の外無之公等も嘸々御焦思爲國家御盡力之義は申迄も無之と奉想像候就るは當地英國留學生之義も如何御處置相附可申哉先頃御投簡公務付退英無之様と云々被 仰越委

曲拜□仕候乍去爾後二三之郵船爲待候得共何之御左右も無御座其内御國
 之形勢凶報陸續到來實に被膽至極此上最早留學生等之御金も相廻候義は
 萬々無覺束其上持越之御金も既に皆遣拂相成候事故此上は飢渴に及び可
 申次第に御座候小生はたとひ餓死凍死仕候もいたしかた無御座候得共
 十三人之生徒を御預り申上右一同を餓死爲致候は實に恐入候義に御座
 候故旁以一應巴里斯栗本公に相願只今之殘金を基といたし些少之處相借
 一同急々歸國可仕とそんし右等金子之策等之爲一昨日巴里斯迄小生出張
 仕候然る處右少々つゝ之金子は御處置可被成下候得共只今一同歸國と申
 事には船賃之金無御座候右は船賃横濱拂ともそんし候得共既に藝州の
 すら横濱拂に六ヶ敷よしさすれば小生等之はとても横濱拂無覺束然時は
 歸路之旅用實に差支に候此上はいたしかた無御座只々英國政府とロオ
 イドの憐を乞ひ歸國とか又は公務滯留養ひを乞受旅用無之居らんとする
 に金なし實に進退窮り申候其上英國政府に申候ても一同之歸國を支へ可

申も難計ロオイドは素々自分の利を營まんか爲私共を金の形にとらんと
 し力を盡して留候策をいたし申候其上ロオイド申には若徳川家亡候へは
 御門之政府に訴へ一同之費を受取可申由申居候位に御座候右ゆへ一同は
 此上餓死とか捕囚とかに相成可申嘆息仕候何卒右事情藝州を御所持金子
 御廻し一同歸朝之策御行ひ之方外いたしかた無御座奉存候今日藝州に
 一封を記し小生輩之憐を乞ひ申候旁一簡を送り申候尤品に寄英政府へ乞
 ひ日本に歸しくれ候様頼候ともそんし奉候右等も御合奉願候先は右拜啓
 勿々頓首

洋曆五月十七日

巴里斯に

川路 太郎花押

三七 在英川路太郎中村敬輔連名書翰

〔川勝近江守等宛〕明治元年四月

當正月廿四日出之近州公より之御内狀體に拜受御懇切被 仰下難有奉

萬謝候尙何卒該件御盡力奉祈候

以寸楮啓上仕候其御地は追々薄暑之候と奉存候先以御壯勇被成御座候奉
 并賀候然は兼而世話人ロオイド御座候に付種々不都合に而一同難儀仕居
 候而已ならず實に莫大之御入費空しく同人の手に入り恐入候義御座候依
 り御仕法替相願候一條○又是迄の姿にすへ置せられ候とも御仕法替に相
 成り候とも何れにいたせ一體取締と申すものは無用之者其故はもし是迄の
 取締なり扱又御仕法替に成れば銘々可然人物の處に寄宿いたし候事其師匠と申す事申
 と申すもの即取締なり御手當の配分のみ公事なれば生徒月番にて事濟む也
 上候一條○又兩人昨秋以來病氣に而何分當地に而養生仕兼候に付歸朝之
 上療養仕度願書差出し願之通り被 仰付候様御取計被下候様願上候一條
 ○以上三ヶ條御斟酌被下最早只今頃は御仕法替とか是迄の通に被爲居置
 とか御決着に相成り且私共兩人は無用の者に御座候上病氣に而歸朝願候
 事故願之通り被 仰付候事とは奉存候へ共事情切迫仕り候事故猶又申上
 候何分可然御取計可被下候扱又御金至る乏少に相成り來月迄に御金到着

不仕候而は一同の御手當を相渡し候金に差支へ候位の事に御座候先便御
 内狀被仰下候通り後の飛脚船には御金到着且歸國か滯英か相定り候御下
 知も可有之と奉存候得とも猶又御催促申上候此手紙御落手迄未だ御金仕出し
 候様是非とも奉願候御國にて非常の變御座候事故多分一同歸朝被 仰付候
 事と推察仕居り候もし一同是迄の通り留學被 仰付とも私共兩人は前文
 申上候通り實に無用の者にて且年輩も長し過ぎ候而少年同様の藝術の成
 業も無覺束徒らに御賄御手當頂戴仕候義奉恐入候と存候折柄胸痛に而修
 行も出來不申候間偏に歸朝被 仰付候様奉願候私共兩人歸朝候而も一同
 迷惑の次第は毛頭無御座候生徒いつれも謹身勉學に御座候得共其中重立
 たるものを選び月番を立被爲取扱候得は差支候義は無御座と奉存候將又
 操替し申上候義は金子の事に御座候萬一金子御廻し無之候而は歸朝被仰
 付候而も旅中船賃の入費も無御座出立も出來兼申候間無相違御廻し被下
 候様奉願候右等申上度如斯御座候早々以上

辰四月

中村敬輔花押

川路太郎花押

川勝近江守様

傳習掛中様

再啓本文之件々何卒御盡力奉願度此節非常之御時節柄御金等之義申上候は恐入候義にも可有之候得共拾四人之人員一日も無錢に暮し候事にも出来不申是亦歸朝被仰付候節は早速船賃旅費も先年之振合を以御廻し無之候はいたしかた無之御國辱にも相成候事ゆへ可然奉願候且又先頃中より云々申上置候ホタル之仕拂并に御書籍之代金等は色々差操置候御金に生徒御手當其外私共自用持越し金等今日仕拂相成候義に御座候間是は定例物之外に早々御送金相成候様御盡力之程偏に奉存候左も無之候は實に迷惑仕候先は右拜啓勿々頓首

三八 在佛栗本貞次郎・澁澤篤太夫連名書翰

〔栗本安藝守等宛〕 明治元年閏四月廿七日

江戸	栗本安藝守様	巴里	栗本貞次郎
	川勝近江守様		澁澤篤太夫
	内御用向		



辰閏四月廿八日生徒歸朝便渡

以內狀啓上仕候御國表之景情追々御切迫既に三道之京兵著府いたし此上如何様之御沙汰被仰出候哉も難測御危類旦夕に御迫之趣三月廿一日附御用狀に拜承誠以奉恐入候御儀血涙之外無御坐候右御旨趣有増民部大輔殿にも申上候處深く御痛心被成何卒上様思召之程被爲貫御寛典之御處置有之候様御懇祈被成候旨被仰聞候

一英佛魯蘭の御差遣置之生徒一同引上歸國爲致候様先便御達書到來に付早々手續取調則今佛郵船に英佛蘭生徒丈歸朝爲致候尤荷蘭生徒之内伊東玄伯儀此程中の病氣に付旅行相成兼候趣申立候間全快次第出立可致旨申達候尤病氣療養手當并歸國入用丈けは同人手許に貯有之候趣に付病氣快方に相成候は、無差支出立可致候

一英國生徒之儀御達之趣取締之者の申達候處其後川路太郎巴里表に罷出同人共歸朝之儀旅費無之無據英政府の申立則喜望峰廻英船に歸國之儀政府を被申達候趣申聞候尤歸國入費は凡三萬フランク以上に相成可申候右は英政府に立替置生徒御國歸著之上故政府を請取方出來不相成候は、新政府の掛合可申との趣依之種々勘考いたし候處各國留學生儀は固より御當家之士官此度御變遷に付歸國爲致候處英國之留學生而已英政府を被差返其上右歸國入費新政府の談判可及儀に如何にも御不體裁不忍儀と奉存且は右生徒共儀も歸著後身分成行之程も難計餘

り御趣意柄取失ひ候儀に付其段太郎へ申聞因る澁澤篤太夫倫敦迄罷越世話人ロエドの申談候處數々疑敷取計振も有之候に付同人に申斷佛國飛船に今便歸國候様取計申候尤英政府おゐて別に不實意之取計有之候儀には無之全ロエド之取扱と存候間其邊之處英政府の相通候様書翰を以ロエド迄相達し事済引拂相成申候委細之儀は太郎敬輔も可申上候得共右一條に付るは私共儀も不一方心配いたし漸前書之通取計候次第に御坐候

一魯國留學生之儀御達之旨申遣候處生徒を魯國政府の申立歸國支度仕候處右生徒儀は元御老中方を魯政府に御頼相成候に付御老中方を御達無之候は引拂不爲致旨政府を被申聞差支難澁之旨書狀を以申來候依之一昨廿五日澁澤篤太夫巴里在留魯國公使館に罷越コンシユールゼテラールの引合候處本國政府に右様存込候儀に候得は別に致方無之旨申聞候間御國之時情丁寧申聞因る在留之公使の其段書面上に公然引合

候様談判および別紙之通御達書寫并書翰共昨日差出申候右に付多分生徒歸國可相成と存候右は差掛り取計過候儀とは奉存候得共御國往復等いたし候は、無益に歳月を費し生徒共入費も差支彌増難澁に陥り可申存候に付前條取扱候間宜御許容被成下度候

一英國生徒歸國爲致候付は航海入費其外共別紙之通り御旅館御賄金之口立替相渡候間御承知可被下候尤も近江守様三月廿一日附御内狀に付英生徒御手當類半年分御請取相成候趣其中時勢御平穩にも相成候は、私共の向御廻し被下度尤既に御差出相成候は、請取置候様取計可申奉存候

一佛蘭生徒船賃拂方は銘々之入用金に無差支拂方相成申候

一荷蘭商社の御振込之貳萬兩商社方の申談一時に請取候様致度掛合候得共難相整候尤取究之月に五千弗は無相違相渡可申に付先當分御差支は有之間敷可存候

一三月中再度之御用狀に付御旅館御手詰方之儀種々心配督教之者御斷之儀フロリヘラルトにも申談候得共何分政府おゐて御國の御達無之間は御衰運を以御見捨申候様相成難忍次第に相考居候哉之趣左候得は私共も別段申立方も無之先其儘罷在候乍去所詮往々御入費も難被爲續儀は必然に付いつれとも工夫いたし御手詰相成候様仕度可然學校の御入塾相成候様取計可申左候は、縦令以後御入費相絶し候とも兩三年は御支相成可申奉存候此段篤と御勘考之上御取計有之度奉存候

一山高石見守栗本貞次郎儀生徒引拂以後は自分賄を以留學之心得にて委細は同人共の申上候に付相略申候

一安藝守様御持越相成候連發銃御買上之儀赤松大三郎取扱方不行届にも候哉商人方の品々申來存外御入用相嵩候尤いまた渡濟不相成候間追取調差上可申候

一各國生徒歸國飛脚船之儀御時節柄に付一同二等之賄向に歸國候様申

達船室買入方等取計候處一昨廿五日クレーの申聞候には是迄歸國之者一同上等に付此度限二等に引下げ候も何分御不都合には無之哉尤御入用筋之儀に付無據儀に候得共當地にて二等之拂方いたし候は、上等之代増之分は御國に於請候様取計上等に於歸國候様いたし度旨申聞候右は同人之厚意に於申談候儀に付任其意取扱申候就るは別紙調書二等上等之差兩人之調印を以借用いたし候間御國著之上償戻し候方可然御取計可被下候

右之段申上度如斯御坐候以上

澁澤篤太夫花押

栗本貞次郎花押

栗本安藝守様

川勝近江守様

尙々近江守様々安藝守様々御内狀兩人限披封内々拜見いたし候已上

英國ロエドの御預け之品賣拂方之儀此間中篤太夫同所の罷越候節取計候積之處何分英國ロエドに任せ候は不安心之儀に付廉立候品々は御旅館に引取候積其余は賣拂方ロエドに申談候詰り右品々は引取候にも格別御入費に於御益無之に付右様取計申候右品々之儀に付は精々心配疾に太郎へも催促申遣し置候へとも何分不埒取莫大之御損失詰り根本御手違に付別に致方無御坐候

三九 在佛山高石見守書翰〔川勝近江守宛〕明治元年閏四月廿七日

拜啓益御壯健拜慶陳は今度留學生徒御呼返し相成候に付は小生義も一同歸府可仕等之處兼る藝州の内話致置候義も御座候間先此度は引殘留學罷在候積に御座候尤向後御手當向相願候義には無御座候此段可然御含み置可被下候頓首

閏四月廿七日

山高石見守

別紙御側衆の御進達可被下候頓首

四〇 在佛山高石見守願書〔側衆宛〕 明治元年閏四月

御側衆

山高石見守

御作事奉行格

御小性頭取

山高石見守

私義今度歸府可仕候處持病之胸痛に在歸府難仕候に付暫時引殘申候依之此段申上置候以上

辰閏四月

四一 在佛栗本貞次郎書翰〔川勝近江守宛〕 明治元年五月廿六日

別封乍御面倒様御届方奉願候生徒一同之寫真一葉託幸便拜呈仕候俊太郎の御查收可被下候

以佛飛脚船便一書拜呈仕候爾來愈御清穆奉賀候陳者今般之御書取并御書中之趣等も有之候に付先便申上置候通常所留學生歸朝可致候當地委細之模様は同僚俊太郎より御傳承可被下候生徒出立に付航海費之義幸先般御廻相成候御手當金等有之當所之分而已に在は差支も無之候處英國生徒同様引拂に付御承知之通多人數相成種々篤太夫とも相談仕候處何分引足不申無據一同第二等に在歸朝之積相決候處ク一レ一厚意に在差當第二等丈之諸費相拂不足之分は一同其表著之上皆濟可申候様相成先一同第一等に在歸朝爲致候已に前便御細書之義も有之候間右意に任せ本日篤太夫同道

此件は篤太夫兩名之御用狀に在御覽可被下候

條約書爲取替候右様相計申候委細は俊太郎太郎敬助にも申談置候得共右
 殘金之義は早々御返却相成候様前年奉願候已に隼人正殿御歸朝之節之殘
 も有之候處故全く之厚意に出候義可然御諒察奉願候
 拙義は先便申上置候通且同苗より御傳承も有之へく候得共先當分引殘
 公子御模様も拜見致且は己之學業をも致度被存候幸當所日本語學校教師
 を尋候折柄先活計之爲一時右に被雇候積尤右は未不定に御坐候得共内々
 申上置候

外生徒之内何々永滞在之義可有之と種々工風致候得共何分宜口無之偶有
 之候得は例之シベリヲン位に之無據一同爲引取申候俊太郎儀は佛語も出
 來甚遺憾に御坐候御國之模様其後新聞無之如何相成候哉日夜心痛仕候併
 已に萬事盡併各位御盡力之甲斐も不爲顯候様奉存實以歎息之至併其後好
 新聞も御坐候は、御投書被願度横濱表御書御不都合に御坐候は、テロト
 ル迄御差出可被下候同人には委細頼置候間何とか致置可申奉存候

諸御入費仕上之義は未借家之分落著不仕候間右決次第仕譯書御手元可
 被差上心得に御坐候

當所別段新說無之候余萬縷期後鴻之時候勿々

五念六夜

貞次郎花押

江州 公几下

尙以森川初水屋其外にも宜敷御鶴聲奉願候

四二 在佛栗本貞次郎・澁澤篤太夫連名書翰 「栗本安藝 明治元年
 守等宛」五月廿七日

以內狀啓上仕候然は爾後御國表之景況御用狀并御書付類將御内狀等に
 亦逐一拜承實に悲泣血涙之外無御坐候唯々奉恐入候

一 本月十五日著郵船便に之民部大輔殿御歸朝之儀別紙寫之通京師外國事
 務督より之御達書壹封黃寶在留之佛國公使に被相渡候趣に之相達候右
 に付其段佛國政府へも相達し御奉命御歸朝之旨申立置候就之は佛政府

おゐても夫々見込可有之何れ其中左右可申聞儀と存候得共先御歸國之積を以夫是取調仕居候尤右御達書到著之前は民部大輔殿にも御決心之品も被爲在是非共御歸朝被成度旨被仰聞候處尙又右之次第に付は可成丈取急き御歸朝被成度候間諸事精々取片附出立支度可仕旨切に被仰聞候に付其段御附屬コロチル并岡士ゼチラール、フロリヘラルトにも申談夫是取扱罷在候尤前條政府之見込も可有之儀に付當地御出立は西曆九月頃ならては諸事取調濟相成申間敷旨御附添コロチル岡士等申聞候此段御承知被下度候將又右御達書之御請別紙寫之通佛國公使を相達候様取計今便差立候間是又御承知被下度候

一民部大輔殿御儀彌前條申上候時限に御引佛可相成候は、當地御引拂手續別を相伺候日合も無御坐候間時宜次第取計可申奉存候尤佛帝并當政府に御頼相成居候廉は御取失無之様仕度旨民部大輔殿へも精々申上置候

一荷蘭商社爲替金之儀は彌御出立相成候節は已に御渡相成居候分は不殘請取候様可仕奉存候

一英國留學生之儀別紙御用狀にも申上候通電信到著不仕に付佛荷生徒共相纏閏四月廿八日佛國飛脚船に御出立爲致候就は英公使に御渡之生徒入費は差詰御取戻可相成儀と存候へとも生徒出立之節申上候通種々入込候場合も有之當地に英政府に掛合候とも所詮難行届被存候間右御取戻之儀は其御地に英公使に御引合被成候様仕度奉存候尤自然英政府に申來候儀も有之候は、被仰越之通相心得取計可申と奉存候右は全電信不著より相生し多少不都合とは奉存候得共今更致方無御坐候間宜御許容可被下候

一昨今當地之新聞に御は上様水戸表御退隱之後北國諸侯合従いたし王命を拒其上海陸軍脱走之者共四方に散亂いたし居いつれ近々戦争可相成歟に申唱候自然右等之場合に立至候は、御國之動亂彌増甚敷終には

如何様之變激出來申間敷哉も難測實苦心此事に御坐候

一民部大輔殿御直書壹封差進候間 上様は差上方宜御取計可被下候

一近江守様御内狀には時々私共限拜見いたし候

右之段申上度如斯御坐候以上

辰五月廿七日

澁澤篤太夫花押

栗本安藝守様

栗本貞次郎花押

川勝近江守様

駐劄外國使臣等との往復書翰

駐劄外國使臣等との往復書翰

一 米人「ソウ・シ・ドウ・チャール」書翰

〔中濱萬次郎宛〕 一八六一年十二月廿日

○江戸に在る船主萬次郎シヨン・マンに

一千八百六十一年第十二月二十日ホノロ、に於て

予か貴友シヨン・マン

今日一船神奈川に向け出帆す此船中にフランクリンといへる婦人并に亞國の士兩人在り此兩人は日本に行き其政府に仕へ日本の事情探索の要を務めんとす

予汝を良譯司なりと話せり因て汝兩士の用を便するは予か願ふ處なり此書翰に聊か新聞紙并に少冊子を添ゆ之を汝に贈りて予凡三箇月土地を離れミコロニシアに旅行せしを告る而已

汝より船主ウキット・フェルトに贈りし信物は汝ホノロ、を退去の後直に同氏に贈りたり其達せし事は同氏より聞ざれとも舟人共より聞たり予汝の書翰を落手する事なし予思ふに其國より文通の自由ならざるか故ならん然れとも予常に汝の音信を待つ予か妻ドウヲール及び小兒共皆健なりエデユアルト及びソウネルは學校に在り

予は汝の信友たるを忘れず敬して申す

ソウ・シ・ドウヲール花押

ニ 米人「ウキリアム・エッチ・ウキット・フェルト」書翰

〔中濱萬次郎宛〕 一八六二年三月九日
文久二年二月九日

米人より萬次郎の英文書翰

曩日サンフランシスコに渡來せし日本のコルヘット威臨丸船主シヨ
ン萬次郎

一千八百六十二年第三月九日サンフランシスコに於て
予か貴友船主シヨン萬次郎
汝此書を予か友人船長ウキットより落手すへし此友人を懇情に保守する
は汝の思慮にあり汝憐惠の處置ある時は予か歡喜不少

汝の舊友

ウキルレム・エッチ・ウキット・フェルト

堀 達之助譯

○

日本に在るジョン萬次郎君の (文久二年二月九日)

堀 達之助譯

一千八百六十二年第三月九日サンフランシスコに於て
久く別れ疎遠なる貴友

川勝家文書

汝に一書を送らんとせしに此度新に撰任せられたる宰相なるもの之を汝に届け遣んとの懇情あり依て汝此書を落手せし後返書を送らんとせば此門路に倚りて送らは相達し其便利なるを知るへし且予も亦數々書送せんと思ふなり

予か妻堅固にて伯母シントメリエ婚姻せり男子マルセルレは稍十三歳になり汝前年ホウラナ船に在りし時の如く生長し女子二人あり一人は十一歳一人は九歳になり皆堅固にて美童子となれり隣家の老人共汝家に在りし頃汝の正直なる事を思ひ出し數々噂して皆尊むへき汝の情態及び氣質を頼母しく思ひ汝其國緊要の人物となり予等其國の各人と交易せん事を請ふ

我國の一部に騒亂あり今之を治めるを專務とせり此騒亂は政府を離れ他人の命令に従はんとせし者ありて起りたるに諸民其號令に服従せず然るに當今國政を執りたる人々は諸民自在の事を計る處置なれば汝の國人も

近年の内此地に來る事の自由なるへし戰爭を起せし者を治めんと其號令を下すには人民の死亡且金貨の失費許多ならん依て此地に於ては富者となく貧者となく諸民皆有益仁惠を專務とし今に至るまで戰爭更になし此度の戰爭止む時は諸人の自在安逸且政府の威權行はれ國の法則定り支那日本より速に人民來りて亞國出生の者と等しく此地に居住して其作業を營まん汝何故に此地に來らすや日本の物品を交易として持渡らん事を請ふ

ウキルレム・エチ・ウキトフエルト

三 米人「デキソン」書翰「立石斧次郎宛」

一八六二年五月十三日
文久二年四月十三日

○デキソンより通辭斧次郎に英文書翰

横濱 千八百六十二年五月十一日

斧次郎君に

川勝家文書

汝今日余に御殿山及其地に建る異人館の事を話せり余か嚮に云へる事及何の故を以其事を云し譯を爰に述んとす
横濱に居れる日本人種々の事を言ふを聞たる中に彼等怒りて御殿山の遊場所を奪ふて異國人に與へたりと言へり
余謂らく人民の望を傷らざる様取扱ふ事は日本政府の爲にも横濱の異國人の爲にも利益ある事なるべし○日本の内加州信州常陸等の地の人民怒りて亂を爲す事余側に聞けり

御殿山は

家光公の時人民の遊樂の爲の地と定められたり今何の故を以て人民の均しく受けたる地を奪て異國人に賜ひたる乎
大名方外國公使の一人の所存を怒り居るを以て大に御老中の心配を生せし事余此れを知る今は人民の外國公使を惡む事大名と異ならず
若し御老中より英國政府に對して日本の使者の爲にハイテバルク倫敦府にある

華麗なる名を借し與ふ可しと云は二國果して此れを許さんや否や彼れ必ず
此れを許さざる可し

英佛二國のハイデバルク及トイルリースは猶日本の御殿山あるが如し故に余謂ふに日本の政府今猶外國公使に對し御殿山は借し與ふ可らすと云ひ先方より其れに付て言出せる事は取用ひさる可し日本政府にて此の如く取行ふとも異國にて如何とも爲す可き様なかる可きを知れり此の如くなれば日本政府の權威強くなる可し其故は國內に外國人を置けば日本の威勢次第に弱くなればなり(外國人は日本の政律を用ひさればなり)此の如くに異人を居らしめたるを以て支那此れが爲に弱くなれり
異國人は自國の法を行ひ自國のコンシユルの下に住めるを以て罪人あれども日本政府にて自由に之れを罪する事能はず余謂らく異國商人を江戸に居らしめ公使をも商人と共に中川尻の如き地に居らしむるを好しとす可し今は公使江戸に住し其行ふ事何事たるを知る者なし

余は就裡一公使を思へども御老中の考へは此れと異なり公使商人と離れ居るを好むが故に其事行ひ難し
御老中の弱みは條約中に異國人自國の政律に由て行ふべしと云へる一條にあり一旦結ひたる條約は二三年の間は變革する事能はず日本にては日本人英吉利佛朗西亞墨利加魯西亞に居る時此の如く爲さんと云張る外言ふ可き事なし
英吉利佛朗西亞魯西亞にて此事を日本に許さば他國にも亦許すべき道理なるが故に必ず許さざるべし
日本にて條約を結ぶには
帝家左の事を知らざるべからず
家康公昔時に在ては英明にて其法に由て國家太平と成れり然れども今は時勢昔時に異にして政府に運上を取り船を造り大砲を鑄人を教練して他國と優劣を競はざる事を得ず

英國政府の費用は毎年二萬ドルナルなり其數は日本の費用と相違せり然れども日本は英國より富饒の國なり日本にても英の如く棉布を織る爲に蒸氣機具を用ひば其織出所東國諸國に充滿すべし
余が汝に書を贈るは余が日本を喜ぶ事一端のみならざればなり余が言ふ所は汝解す事能はざる可し
汝の多福にして且其官位昇進するを聞くを望む

汝の親信の友

、、、、デキソン

箕作貞一郎謹譯

四 蘭醫「ボンベ」書翰「外國奉行岡部駿河守宛」

一八六二年七月十七日
文久二年六月廿一日

○長崎在留蘭醫ボンベより外國奉行岡部駿河守に贈る書

千八百六十二年第七月十七日長崎に於て

外國奉行岡部駿河守台下に呈す

予此度造船稽古人と共に醫學生兩名を荷蘭國に於て醫師に教育せんとて其旅行あるを聞及へり依て予此事に就き謹んで一翰を台下に呈す
台下の自ら知り給ふ如く予日本に於て醫學教頭として五ヶ年の間常に勉強して貴國の切要有益の實を爲さん事を勤め且又台下此地の奉行たりし時余屢此事に就き謹んで台下に告知せし事ありき
右の告知中余台下に幼若の輩兩三名をして其根元より始め正しく教を受け其後眞に醫術を學はしめん爲めに是を歐羅巴へ差遣し給はんことを希へり○松本良純君亦此事につき屢台下に告知せり又自からも大に勞し初めより醫學の爲めに其幼子敬太郎を和蘭國に差遣し此地に於て全く余か教導に任せんことを求めり故に余も亦日本政府にて此事を許容し給はし其幼子を保育せんことを約せり
松本君既に五ヶ年此地に逗留の間努めて其倦さるの所業を以て其子敬太

郎の爲めに是の如き差別ある程の功を成せり○松本君學術の醫として近日歸府すべし此人甚た功者なり

○、、、の代りに伊東玄伯君荷蘭國に旅行あるを承知せしは余に於て甚た不平なる事を台下了解し給ふへし殊に玄伯此行には年齢餘り長し且又荷蘭國に於て其多く學ひ得ざる事を余殆んと前知し得る程に其人多く才力を具せず

林研海の任撰は甚善しとす年齢も猶若く十八歳且敏捷なるを以て余其人の善く成すあるを期す

是に依て余も松本の如く此事に於て多くの勞の爲めに甚た纒の價あるを台下宜しく察し給ふべし且つ余松本の事に就き取扱方正當ならざるを得ず

是に依て余台下に松本の幼子は實に學問の爲めに最も適當なる年齢なれば三十歳の人より甚た善きを以て猶後に是を荷蘭國に差遣されんことを

強て請ふ

若々此事成就せば台下余が來る十一月九月荷蘭國に歸郷の時松本の幼子敬太郎を伴ひ行くこと政府に取持給はんことを希ふ且敬太郎を全く余が教育に任せ賜はんことを請ふ
併し余が見込の如く全く其教育を托し給はんことを駈と書翰にてコンシユルゼネラルに告知し給ふこと肝要なり然れば余も其幼子の學問仕込の爲めには及ふたけは是を教育すべし
台下此事を余か出立前に取計らひ給はんことを希ふ恐惶敬白

台下の臣僕

姓名讀兼申候

杉 純 道

同譯

佐波銀次郎

五 英公使「オールコツク」書翰〔老中宛〕

一八六四年八月廿九日
元治元年七月廿八日

〔七月廿九日差出〕

千八百六十四年八月廿九日横濱

外國事務執政閣下に呈す

前月三十日余か呈せし書翰の回答として七月三十日附之閣下の書翰を落手し能く領會したり

我か同職の者も亦各々同趣意同日限の書翰を落手したり依て四ヶ國の名代は閣下の回答の趣意を熟考し之に由て爲すへき處置を案する爲め會合したり

事容易ならざるを以て長く種々に商議せし所の決定は我等の願にて御老中の方より遣されたる參政并に外國奉行へ本月十九日告述したり
前に云へる御使より述べられたる諸件を熟考し今は其得る所を以て告知するは我職分なり

諸名代の説にては七月三十日附閣下の回答は實に大切なる條約の正理を破るものなりとす

○參政は行軍を延引せんことを切に述べると雖も長州侯を罰するは
大君の職任たることを領する能す又其時參政より此事件を處置する爲め
預め其時限を期すること能ざる由を述べたり且其次第にて御使の面々は
諸名代の終に決定せる處置の正義なるを異論する能す
遅延のことに就て

大君の方より述立たる道理は是まで告訴せし因循のことを正しく述る能
す又縦合急速ならずとも或る時限の中には

大君に於て眞に處置ある旨を以て余等を満足せしむる能す故に條約濟の
諸國自ら事を執り行ふに非されは此大名は決して罰を受ること無きは人
々の明らかに知る所なり

是故に外國諸名代は衆議の上更に此後遅延することなく方今瀬戸を自由

に通行する爲に起れる妨碍を除き此場所にて外國交易の害を掃ふ爲め必
要の處置を爲さんとて海陸軍の老輩士官に命したり外國人横濱より退去
并に在留するに於ては危難ありとの个條に就て閣下及び御老中も今は
我等の各政府に而鎖港談判は速に不承知を述る事を知れるなるへし○故
に居留地及び外國人生命を規すの危難に於ては余及び同職之者之爲めに
は只我等企たてたる處置を行ふ間合從軍勢の大半止むを得ずして不在せ
る時に當り生命并に所持を襲ひ規す事あらん由を

大君政府に忠告するの一事あるのみなり斯く大兵不在之時を不法惡逆之
徒は余等を襲撃せず共我輩の安全を害するには好機會なりと思ふなるへ
し○又此時に當り閣下に下條を陳するは我か職分なり暴逆○規し驚すの
策○兵を動さしむるの暴○我輩に屬せる日本人を追拂ひ○居留人を騒し
○其交易及び平安を害する等は仇敵の所業と爲す可し是皆日本全國の引
請けて言譯すべきものなり其犯罪人は何人に論なく惡事を見出せし時は

只江戸に敵對する而已にあらず大坂京都に對し返報を爲し其國の引請たるの次第を知らしむる處置を爲すへし
故に余等皇帝及び大君并に全國の安全利益の爲め此地并に外國交易をため開きたる港に於て無事和平を破る事無きを祈る恐惶敬白

英國特派公使全權ミニストル

ルーゼルホルト・アールコツク

六 佛公使「レオン・ロツシユ」書翰〔老中宛〕

一八六四年八月三十日
元治元年七月廿九日

〔七月廿九日差出す〕

御老中様

先達て若年寄衆來り長州之義につき各國のミニストルへ御談之趣を考へ申候といへども元より我政府より長州之大名を嚴しく攻問ふべき旨命せられたり依て今般軍艦長州の出帆し大砲を指向けこれあり候間貴政府よ

り心をつくし色々申され候へとも取り用ひされは已む事を得ざる事に候横濱を固め守る義は我方に元よりとりはからふこと故少しも心支い之れなく然らば若し萬一騒ぎ是れあり候は、軍艦方は申付け京都江戸大坂を伐平げんと致すべく候右は實に據らなき事ゆへ前以て申上げ候拜具謹言

西洋曆

佛蘭西國全權ミニストル

千八百六十四年八月晦日

レヲン・ロセス

七 水野和泉守書翰

英公使「オールコツク」宛 元治元年八月五日

〔八月五日被遣〕

貌利太泥亞特派公使全權ミニストル

エキセルレンシー

ルーセルホルト・アールコツクの

貴國第八月二十九日附書翰落手披閱せり我客歲中長門國於て各國船舶に對し發砲せし處置之儀に付縷々被申越逐一其意を了せり右條件中長州は條約濟諸國にて手を下するにあらされは罰を受ることなきとの趣あれとも我國内之賞罰は固より政府より出るなれば決して可捨置義には無之乍然如斯重事に至りては最も國律を正し夫々順序を経廟議を盡すにあらされは其處置施しかたき故既に我

大君殿下再舉之上洛におよひ商議一決し彌以今般長門周防兩國征伐可及旨數家之諸侯に追討之命を下したれば不日討伐致し候尤巨細之事情は此程外國事務參政立花出雲守を以申入し如くなれば右海峽に軍艦差廻るゝ義は先つ見合せ暫く此方所置に可被任將橫濱鎖港之儀に付るは兼々申入れしことく我國内人心之動靜向背に係り各國交際上於て障礙あれば不容易義と常に憂懼する所より不得止して可恥事情をも不顧其許等々打明け談判およひ遂に使節をして各國都府に被差渡し處半途にして歸國いたし

我政府之意趣貫徹せざるに付尙即今更に使節之もの撰任せられ近日各都府に相越國內巨細之事情を詳悉し懇談可爲及聞是迄之形況等篤と諒察せらるゝ様希望する所に候右答書如斯候拜具謹言

元治元年 于八月五日

水野和泉守

○水野和泉守書翰

米國公使「アリユキ」宛 元治元年八月五日

亞米利加合衆國ミニストルレシデント

エキセルレンシー

ロベルト・エツチ・ブライン

荷蘭コンシユルセテラール兼ポリチーキアグメント

エキセルレンシー

ド・デ・ガラーン・フ・ハン・ボルスブルーク

貴國第八月二十九日附亞の方第八十號書翰以下同文言

○水野和泉守書翰佛公使「レオン・ロツシユ」宛 元治元年八月六日

「八月六日被遣」

佛蘭西全權ミニストル

エキセルレンシー

レヲン・ロセス

貴國第八月三十日附之書翰落手長州家問罪之儀は素より其政府之嚴命も有之事故此程參政立花出雲守を以申入れし軍艦差留方之儀は承引不被致旨被申越るれ共同家討し方之儀は實以我國人心之動靜に係り不容易事に付我政府於るも是迄品々苦心せしに今度廟議一定し彌以周防長門兩國征伐之儀數家之諸侯に命令したれば同所海峡に軍艦差廻し候儀は見合暫此方之處置可被任様いたし度此段回答旁頼入候拜具謹言

元治元年 子八月六日

水野和泉守

八 佛公使「レオン・ロツシユ」書翰

一八六五年四月廿一日
慶應元年三月廿六日

當三月十日附之御書翰落手致候然は酒井飛驒守殿と各國目代去る九月二日取替せし定約書之義に付被申越候云々委細領掌候然は貴國方今之時情中海に於て爲貿易開港難被致候得は素より定れる通り償金を可被渡段篇と了解致候然は償金惣高を六つに割り其一を當六月中頃可被渡残り五分之内一を來年六月中可被相渡趣被申越候處來年六月以後之被渡方御書翰中に不相見候得共先條約之如く可被相渡と心得居申候
右之條々は各國公使等集會し大略同意之上此之返翰差上申候雖然とも他之公使等銘々心に任せ返答可致候扱貴國政府港を不開償金可被渡義御書翰中第三ヶ條に隨ひ我方に於ては理解致候故是非を不論候將又償金可被渡日限被延度義被申立候處各國目代等は急に承諾可致否彼等自ら決談可致程之儀御座ある間敷我又本國に申贈り速に承諾あらん事を周旋可致候

乍去本國政府にて日限被延度承諾不致時は先約之通り來年六月後は三ヶ月毎に被相渡る、心得に被居奉存候我に於るは何卒我が政府御望を満度所希に候拜具謹言

丑三月二十六日

佛國全權ミニストル

レヲンロセス

閣老中様

(卷末歐原文寫第一號參照)

九 蘭人「カール・レーマン」書翰

田中哲輔宛 一八六五年五月十七日 慶應元年四月廿三日

○和蘭カール・レーマンより

田中哲輔に贈る書翰

一千八百六十五年第五月十七日横濱にて書す

江戸田中哲輔君に

一筆致啓上候私儀此度當港へ到著仕和蘭商館第二十九番に在留罷在候然

者此度鋼鐵にて鍛ひ候針放銃の最上の品見本として持參仕候此筒并に鋼にて鑄候旋條砲は近頃第泥馬爾加との戦争に用ひ容易に勝利を得候良器に御坐候依之貴國政府へ右兩器御世話仕度奉存候しかし右針放銃之儀は往々拙工之擬造仕候粗品も相見へ候得共右様之品御買上被成間敷候様奉存候右の段早々御返答伺度奉存候恐惶謹言

カール・レーマン手記

四月二十六日

荒井鐵之助

平 歸 一 謹譯

黒田行次郎

川本清二郎

一〇 蘭人「ブークセン」書翰

一八六五年七月二十日 慶應元年閏五月廿八日

西 周助 和蘭國より贈り候書翰
津田真一郎

蘭文 積荷手形譯書

杉 亨 二

私名はズークセンと申候此度所持のハルク船良日を見計此地より横濱表へ出帆の積船中にハンテル・ヘウ・ヘリイハン・サンテンの兩氏より書籍三箱一包番號は 五百九十一番五百九十二番五百九十四番と相記候送り先は神奈川運上所名當と有之運賃は五十四キユルテン五セントと相定候事

但し右運賃五十四キユルテン五セントの内二十七キユルテン三セントは當地にて請取残り二十七キユルテン二セントは其地荷卸の節相渡り候積銀價はメキシコトルラル一枚に付き和蘭銀二キユルテン七十五セントを相場にて請取候事著船之節速に荷卸之儀相届候間西洋二十四時の内御請可被成候若右時刻遅延之節は請取之日迄一日に九

十キユルテン宛御拂被成候事

千八百六十五年第七月二十日

アムステルダムにて

ズークセン

一 佛公使「レオン・ロツシユ」書翰并口達書「老中宛」慶應元年九月十九日

佛國公使魯世津書簡（丑九月廿九日和泉守殿御下十月朔日御勘定奉行方受取即日陸軍奉行に廻す）

口 達

一 此度某各様方に得御面晤可議所之大事件に付吾隊之支配頭カシヨンと申者に先其趣意を逐一申上候様申付候就ては同人演述中に萬一申落等も可有之哉と心付別紙之通則書取を以差上申候御熟覽之上可然御存意可被 仰開候以上

慶應元 丑年九月

佛蘭西全權ミニストル

御老中様

(別紙)

佛蘭西國皇帝之

全權ミニストル

レオン・ロセス

大坂にて

御老中様

御直覽

口達書

一佛蘭西全權ミニストル、レオン・ロセス申上候

我政府は

大君殿下に於て長州之重罪を猶豫する事更に其趣意を不知

大君殿下於今日迄急度其罪を不責唯彼か自ら過を悔て降參するを待追

々日數を費給ふと言共今に至迄其證なく或は偽り降參之約定を申立或は餘人立入て終には

大君殿下之御進發も徒事に成らん哉と某頻に此事を掛念して

推參致し候抑國民を哀憐する事は專人君之所務といへ共併

天子より預り先祖より受嗣處の天下泰平を亂さは仁心却て不仁と成へ

し情方今日本の形勢を考ふるに上は

天子の叡慮不定次には非義なる謀反あり貴國の泰平に禍する者は不外

なら此兩條に有らんか故如何となれば素より政府は

天子より國政を委任せられし事なれば世界の變を見て時宜に隨ふ故に

各國と交易の條約を取結し也素より條約取結事は日本に於ても

天子及諸侯方も政府の同意不成時は却る不慮の擾亂を醸すへし既に政

府に背きて内亂を爲す所の逆徒を日本政府に於て速に鎮靜方不行届は

各國より其逆徒を撃んと議定したり左すれば其期に及んで貴政府より

如何程制し給共不可從就中英吉利政府の所爲を考ふるに交易を專として自己の利益而已を先にし追々疑心を生し彼心
大君は最早無實意専ら鎖港の思召ならんと思ひ居處に薩摩長州の大名英吉利へ密々使者を遣し何時となく二ヶ國に於て開港可致の存意を顯し候故に却ち諸大名と外國と睦敷交るに獨政府而已鎖港の志有と英の政府深く疑ひ居候右の事實は貴政府於ても未だ疑給はんか右は某得と觀定たる所ありて斯申候故に英公使は是等の疑心を晴さんか爲上坂して右の實否を自ら辯明致さん存意に候へは過日某熱海に於て山口駿河守栗本瀬兵衛を以て

大君殿下は何れにも武威を振ひ給ふ様と閣老衆迄申上置候其頃公使頻りに上坂せんとするを延日爲政致キ又は前に述る如き大名の甘言に不都合なるへし併右は如何なる不都合なりとも各國と兵端を開かは猶又禍大なるへし亦日本にては發明したる武器も未少く西洋には大國有て其

大國の兵士は年々の戰場を経て新に發明したる武器も多く有れば日本政府の未西洋に敵對する心なきは必定の理なり既に條約書を爲取替し上は妄りに廢る事叶へからす且鎖港せんには武備未だ不調各國の使節を差遣し屢鎖港の談判に及ふといへとも各國の政府敢て不承引左すれば戦争の外他の策略不可有依て右等を貴國の泰平に災する者と申也昨年毛利大膽意恨を合て外國船を妄りに撃ツしたる一件も速に僅の軍艦を差向て憤を晴さんと欲すれ共

大君殿下制止難默止無餘儀軍艦引上げ候しか長防二國を攻撃ん事は素より各國政府の嚴命なり但貴政府の主意に不戻爲各軍艦引上げて長防を撃事は止たり依て思ふに所詮外國條約の儀に付ては不惑様篤と日本の事情を説示し候故英公使今日迄出帆延引致したれ共最早待兼類に上坂せん事を望む若一人にて大坂に至りなは如何なる事を申立哉又は如何なる所業を致さんも難計ければ猶又英公使の會議して其の意見を説

し故英公使は某と同意して何事も卒爾の舉動無之様堅く約して既に横濱を出帆せんと爲るの日阿部豊後守様松平周防守様よりの御書翰を得たり就ては此度某推參せし事は各様方と計て諸事速に決斷致さん事を欲す左すれば英公使に理不盡なる舉動爲致間敷若各様方格別の御配慮もなく御盡力も無に於ては無余義某も英公使と同意して不日京都までも推參可致候

就るは佛公使至極之實情を以申進するの條は萬一條約の儀に付て天子大君と永く不被爲在御同意に於ては追て四公使上京の上推て天子可奉謁と公使等の衆議は既に決せり素より於京師條約許容あらせられされは自然各國の疑心も不解して總ての交際大に親睦するを不得然る時は近來新に發明したる武器及戰爭の珍書奇術等も不可傳授左すれは日本堅國強武の策も不被行れ貴國堅強せされは國不得貴を天子及び政府も不貴然れば

大君

天子を貴せんとし給は、

天子暫く各國の條約を被爲有

勅許る交際親睦を結給様貴政府に於て宜敷御盡力肝要に可有之候亦暫く各國と親睦し給は、多年を不經して貴國實に堅強するを不得若極めて堅強なるの後は譬一二の外國より異論を發して貴國人情に逆ひ若くは貴國の疆界を犯さんとする迄理不盡の處置致共其期に及んで大に防禦の力充なは各國の人心其時實に貴國の天子を可貴又可恐且貴國の形勢を篤と按するに或諸侯不忠の働き有て表は鎖港の議論を立

天子迄も及奏聞裏には開港の志を抱き薩州長州の如き密に英國へ使者を遣し英政府と熟談して右二ヶ國の中海邊に可然の地を擇て一箇の港を開かん事の情を顯せり然らば所願兵庫を速に開港被成英吉利政府の

疑念をも解かしめ不忠なる諸侯の邪謀を可挫
御仕置無之候は夥多の不都合を可釀も難計ければ此事篤と御賢察
上速に御明斷被遊度存上候拜具謹言

慶應元 丑年九月十九日

一二 外國奉行等上申書

慶應元年十二月十八日

丑十二月十八日周防守殿に上る

謙二郎	宮田文吉
安藝守	齋藤榮助
甲斐守	⑩ 鶴飼彌一
加賀守	御書翰懸
備中守	田邊太一

伊豫守

佛國公使の可被差遣御返簡之儀に付

申上候書付

寺社奉行衆

外國奉行

大目付衆

平山謙二郎

御勘定奉行衆

御目付衆

御吟味衆

御手前様方宛佛國公使の差出候書簡壹封此程遠達仕候處御返簡案取調可
差上旨被仰渡來書御下御座候に付一覽仕候處初件は箱館表に罷在候同所
奉行支配通辨御用立廣作呼寄方催促申出候義次件は佛國都府罷在候フ口
リヘラルトの御委任状速に御差遣可相成様との義三件は今般異國に到着
いたし候富士山御船の可乗込船將之儀四件は博覽會の可被差出品物可成

丈速に御廻し方可相成様との義五件は御國重御役人方叙任等之節速に御報告被下度且當節諸御役人方名前一覽いたし度候間右認取御遣被下度との義に申立之趣いづれも敢不相當之廉不相見候間遂件御承允相成候も可然哉右之内就御役人名前之儀は御目付より取調差上候布衣以上御番順筆順調之名前御認に被差遣候方可然哉には候得共只次件フロリヘラルトに御國事務可取扱旨御委任狀御差遣之儀追々遅延相成候に付は同人義御國事務取扱候にも差支候間御委任狀早速御遣し有之度との趣篇と勘辨仕候處右は柴田日向守佛國都府に爲御使被差遣候節被仰合も御座候義哉に同人彼地おゐて同國外國事務執政に懸合を遂けフロリヘラルト義各國コンシユルゼテラール之比例を以御國之事務可取扱事に治定いたし候段は既に日向守を申越其段申上置候通之義に御座候上は今般ミニストルより申立候通に御名印御座候御委任狀御渡可相成は一體之手續おゐて左も可有之筋には御座候得とも左候節は全くデプロマチキアゲ

ント職掌同様之義に兩國御交際筋萬端取扱候姿に相當り可申右等は此方在留いたし居候公使共取扱不相當之義も御座候は、直に彼方政府に懸合およひ處置可致程之事件をも引受取扱可申役當に尤以不輕義に付有之易埠頭に差置候コンシユル等之如く他國人相雇候様相成候は餘り輕易之御處置に相流れ候哉に相聞え各國簡易之風習に照し候も如何可有之哉殊に御國おゐては西洋各國とは制度風習格別之差異も御座候御交際上之義に至り候は公武之御間柄諸藩之御取扱等品々差搦み居候處右等之心得も無なき之外國人の御委任被仰付候は假令人物誠實才幹學業等も有之候共御用立可申筋とは不被奉存深く心配仕候得とも既に日向守へ被仰合候趣を以申渡候上は只今に至り御異論被爲入候義は相成間敷候へとも尙勘辨仕候得は御委任之上不都合之取扱等御座候節は萬御挽回難相成義に付先づ御手前様より御書付被差遣置何れにも全權御委任相成御國事取扱候者は別に御人撰之上御差遣し相成御條約面通り辨理公使之職掌を以

彼地在留被仰付候方に可有之奉存候間右ヘラルト義は其節に至り右附屬書記官同様之勤向被仰付候とも又は専ら貿易筋而已爲取扱候とも時宜次第に取計候方御條約面も相立都御都合可然哉奉存候間フロリヘラルト御渡之御書付は追取調差上候様可仕候依之別紙御返翰案御書付案取調此段申上候已上

丑十二月

⑨菊池伊豫守

⑨星野備中守

⑨江連加賀守

朝比奈甲斐守

栗本安藝守

⑨平山謙二郎

一三 外國奉行及外國掛目付伺書

慶應元年十二月廿九日

丑十二月廿九日和泉守殿御直上

寅正月十九日清五郎を以御下付承付返上

佛蘭西國人フロリヘラルト御國人難破船

漂流扶助方并御注文品調進方爲取扱候義に

付相伺候書付

伺之通可心得旨被仰渡奉承知候

正月十九日

外國奉行

外國掛御目付

佛蘭西國於て製鐵器械新製大小砲軍器新發明之器械御注文之品々調進方引請取扱候者無之候は事實差支追々留學傳習生徒等差遣候に付は愈以多分之御入用辻爲替繰替等も相心得候者無之候は海外懸隔之地無限不便に無益之御經費も不少候義に付是非とも右等之御用總括引受取扱候御國御用達様之者無之候は不相叶候得共尋常普通之商人に於て佛國

政府に御引受申上御國富強之根元を御扶翼申上候見込に相稱わす節は即ち國之瑕瑾にも相成候義に付外國事務大臣已下其筋之者都府に於て廣く精選仕候處右フロリヘラルト義累代之富豪に誠實忠良義氣有之候者に付此者へ被命御國人難船漂流其外扶助方迄爲相心得候へは諸般御爲筋可然候間御國御用取扱之義被仰付候様仕度就右御しるしの御書付御渡方之義本國外國事務大臣よりも申立候旨柴田日向守をも申越於横濱在留佛公使ロセスをも懇々申立候處此程方今之形勢外國へ右様之者新たに御建設相成候も如何可有之哉に付御留守中は相見合御歸城之上伺經て取計可申旨同國公使へ説諭可及旨被仰渡私共罷越無御餘義事情委曲申演何れにも御歸城後迄見合候様懇々申談候處右一件は諸方御差響御掛念可有之哉と深察罷在更相好候筋には無之候得共右之者當節盛に御注文之製鐵器械大小砲御買入其外諸般之御用引受骨折相勵居候へ共御國より聊にても命令之御しるし無之候は公然十分に力を盡し候場合に相成兼御

差支之廉も不少候間無餘儀右之運に相成候義に悉く御國御用便之爲め本國に於ては上下一同力を盡し居候義に付深く御了解被下度素より御政事向等に聊も關係致し候義に無之且於其都府當分御用取扱可申との御文言相成候得は全佛蘭西都府住居中に限り候義に假令後年御國地は渡來又は英亞蘭其外は相越候とも佛蘭西都府を離れ候得は右御用取扱之廉消候も素々之身分に歸り候事故御用取扱之御待遇には出來不申其上前文にも申上候通有名豪富之者に代々都府に住居いたし諸般之引合多端に付他國へ通航杯いたし候段は更無之身分之者に毛頭御掛念之廉は無之且佛國に於ては海陸二軍之役筋と公事方之職掌は帝命に出候得共其余は皆宰相より當分之命有之候間前文當分御用取扱之御文段は御國に於ては輕く佛國に於ては普通之義若

大君御在城中に候得は御判物も可被下處御留守中之義に付右本國の見合に引付閣老方之御書付にて宜候間右之通被仰遣被下候様仕度左候得は